

# 調布ネットワーク

特集

## 未来を創る、歴史を繋ぐ

### UECコミュニケーションミュージアム別館の開館に寄せて

Unique & Exciting



研究編

- 宮本 友樹 大学院情報理工学研究科 情報学専攻  
情報理工学域I類(情報系)助教
- 村松 大陸 大学院情報理工学研究科 機械知能システム学専攻  
情報理工学域II類(融合系)准教授
- 谷口 淳子 大学院情報理工学研究科 基盤理工学専攻  
情報理工学域III類(理工系)准教授

Unique & Exciting



キャリア編

- 高木 誠利 文化放送ディレクター・プロデューサー  
(1980年電波通信学科(R)入学)
- 杉崎 智介 映画監督  
(2019年博士後期課程基盤理工学専攻入学)



(写真上段左から)「別館開館式典テープカット」「星間塵合成実験装置(日本天文遺産)」「無線送受信機」「モルルス信号で遊ぼう!」

表紙説明

電気通信大学はキャンパス内に「UECコミュニケーションミュージアム別館」を新設し、2026年3月24日(火)に開館記念式典を開催しました。専門的知見の「深さ」を訴求する本館に対して、新たに興味・関心を持つ層の「広がり」を訴求する別館として、より幅広い世代に向けた情報発信拠点となることが期待されています。

電気通信大学同窓会  
一般社団法人 目黒会



(目黒会公式サイト)

Contents


特集

## 未来を創る、歴史を繋ぐ


### UECコミュニケーションミュージアム別館の開館に寄せて

#### Unique & Exciting


- 14

  
研究編


**宮本友樹研究室**  
工学研究の立場から人と対話 AIの良い関係性とは何かを考える  
宮本 友樹
  - 16

  
研究編


**村松大陸研究室**  
生体と電磁波の相互作用が拓く新領域  
村松 大陸
  - 18

  
研究編

**谷口淳子研究室**  
低次元系における量子物性の研究  
谷口 淳子
  - 20

  
キャリア編

**ラジオ制作(ディレクター・プロデューサー)と技術評論家の二刀流人生**  
高木 誠利
  - 22

  
キャリア編

**電通大研究室から世界の映画祭へ挑戦!!**  
杉崎 智介
- 
- 5

会長挨拶  
目黒会2026年度の活動について  
一般社団法人 目黒会 会長 森 淳
  - 7

羅針盤  
学長就任のご挨拶  
変化の時代に、電気通信大学の強みを未来へつなぐ  
電気通信大学長 村松 正和
  - 9

学長退任ご挨拶—退職に当たって—  
前 電気通信大学長 田野 俊一
  - 10

2026年度 支部総会のご案内
  - 12

第83回定時総会開催報告
  - 13

2026年 電気通信大学同窓会賞
  - 24

同窓会賞受賞者から在學生に贈る言葉
  - 25

令和7年度 目黒会賞受賞者一覧
  - 26

御退任記念祝賀会
  - 27

退任のご挨拶  
三瓶巖一/安井正憲/笠原(竹田) ゆう子
  - 29

目黒会グループ会のご案内
  - 30

グループ会報告 美濃島・浅原・加藤研究室同窓会
  - 31

グループ会報告 73Eクラス会
  - 32

グループ会報告 UEC73R同窓会

- 33

会員活動紹介 お役立ち情報
  - 34

メッセージ(近況報告)
  - 35

トピックス『紅葉・イルミネーション大賞』報告
  - 38

一般社団法人目黒会 代議員選挙のお知らせ
  - 39

電通大研究設備の外部共用のご案内 (ARIM事業)
  - 39

会員サービスのご案内
  - 40

第13回 電気通信大学ホームカミングデー 開催のご案内
  - 40

電気通信大学 鳥人間サークルU.E.C.wings
  - 41

スマートテクノロジーフォーラム (STF) 2026  
講演会開催のお知らせ
  - 41

第76回調布祭開催のお知らせ
  - 42

会費改定に関する大切なお知らせ
  - 42

同窓会誌1号の配布範囲見直しに関する大切なお知らせ
  - 43

寄付・訃報/追悼
  - 44

編集後記/会費納入のご案内

特集

# 未来を創る、歴史を繋ぐ

UECコミュニケーションミュージアム別館の開館に寄せて

UECコミュニケーションミュージアム館長 博士（工学）

大家万明



UECコミュニケーションミュージアム別館外観

はじめに…100年の伝統と革新の象徴

国立大学法人電気通信大学は、1918年の創立以来、一貫して「コミュニケーション」という人類にとって不可欠な営みを支える技術の発展と共に歩んできました。大正から令和、それぞれの時代において、本学は常に情報の荒波の最前線に立ち、技術の灯を絶やすことなく灯し続けてきました。

このたび、本学が歩んできた激動の歴史と、現在進行形で生み出されている最先端の研究成果を広く社会に発信する新たな拠点として、2026年4月、東地区の東35号館に「UECコミュニケーションミュージアム別館」を開館しました。3月24日には、本学の学長・理事始め、学内外の多数の要人にご参列頂き、盛大な

るオープニングセレモニーを開催いたしました。本館である東10号館のUECコミュニケーションミュージアムは、1998年に「歴史資料館」として発足し、2008年に現在の名称へと改称されました。

これまで本館は、数万点に及ぶ膨大な歴史的資料を体系的に保存・公開する役割を担い、情報通信分野において専門的知見の「深さ」を訴求してきました。

技術の進歩が加速度的に速まり、社会におけるコミュニケーションの定義がアナログからデジタル、さらには仮想空間やAIなどへと多様化する中で、より動的で双方向性を持った展示空間を提供するため、新たにUECコミュニケーションミュージアム別館を誕生させました。今後は、ミュージアム全体のリニューアルを進め、専門家のみならず、地域住民や中高生、さらには異分野の研究者など、興味・関心を持つ層の「広がり」や国際的な展開を訴求し、情報通信技術の発展とその未来を示す場を追求して参ります。

本寄稿では、大学の新たな「顔」となったこのUECコミュニケーションミュージアム別館について、その概要と展示内容をご紹介します。

## 1 別館のコンセプト…過去から未来への架け橋

別館の設計思想の核にあるのは、「コミュニケーションの歴史の連続性」です。人類が初めて電波を捉えたあの日から、量子レベルで情報を制御しようとする今日まで、技術は途切れることなく繋がっています。別館では、電気通信の黎明期から現代の高度情報化社会、さらに

は未踏の未来技術までを一線の系譜として提示することを目指しています。

## 「収蔵展示」から「動的・企画展示」へ

「本館」が、歴史的価値の高いコレクションを網羅的に展示する「情報機器の展示館」であるのに対し、「別館」は、市民や学生が気軽に立ち寄れる「ストーリーを重視する歴史情報の発信地」として設計されました。ここでは技術を「鑑賞」するだけでなく、「体感」し「対話」することを重視しています。

特に重視しているのが、以下の三つの柱です。  
**システム展示**…個別の部品や装置を点々「単体の物」として見せるのではなく、当時の社会基盤の中でそれらがどのように組み合わせたり、機能していたかを線々「システム」として紹介しています。

**動的展示**…展示品を「過去の遺物」とすることなく、実際に動作する機器のデモンストレーションを可能な限り実現し、最新のAR（拡張現実）技術等も駆使することで、より現実を想起させる展示を行なっています。

**共創進化展示**…これは別館の最もユニークな特徴です。完成された展示を一方的に提示するのではなく、現役の学生、教職員、そして数多くの本学の同窓生の知恵と経験を随時取り込み、展示内容をアップデートし続ける持続的な仕組みの構築を目指しています。

## 2ゾーン別展示構成：通信の歴史を「システム」で体感する

別館の展示エリアは、技術の系統と歴史の変

遷に基づき、7つのゾーンで構成されています。

### 【Zone 0】エンタランスゾーン：旅の始まり

来館者が最初に足を踏み入れるこのエリアでは、大型ディスプレイによるミュージアムのマスコットキャラクターであるMarius（マリウス）が皆様をお迎えします。

### 【Zone 1 & 2-1】電気通信の夜明けと電通大の始まり

19世紀、人類は光速で世界を駆け巡る「電波及び電気通信」という魔法を手に入れ、情報の伝達速度を物理的な移動速度から初めて解放することに成功しました。



Zone 1 & 2-1 電気通信の夜明けと電通大の始まり

日本の通信の原点…ペリー提督が幕府に献上した「モールス電信機」のレプリカや、明治維新後の近代化を支えた「ブレイグ指字電信機」を展示しています。これらは日本の近代化がいかに「通信の整備」と不可分であったかを物語ります。

無線電信講習所の創立…本学のルーツを語る上で欠かせないのが、1912年のタイタニック号沈没事故です。この悲劇と、無線電信が人命救助に不可欠であるとの国際的な意識の高まりを受け、日本でも国際的な無線通信士の養成を目指し、1918年に本学の前身である「無線電信講習所」が誕生しました。説明ビデオでは、本学誕生の背景を紹介しています。

### 【Zone 2-2】船舶通信システム：海上の孤独を繋ぐ

別館のハイライトの一つが、かつての花形職種であった船舶通信の再現展示です。

「船舶通信無線通信室」の再現…太平洋の白鳥と謳われた伝説的な練習帆船「日本丸」。その心臓部とも言える無線室（1970年〜80年頃の姿）で実際に使われていた無線通信機を含め、かつての標準的な船舶通信室の設備を復元しました。数畳の狭い空間に配置された真空管式の送信機や電鍵、そして壁に貼られた通信表は、大海原で一筋の電波を頼りに陸との繋がりを維持し続けた通信士たちの緊張感と誇りを蘇らせます。

### 【Zone 3】電話とデータ通信システムの進化：繋がる喜び

特定の「点と点」を結ぶ通信から、誰もがど



Zone2-2 船舶通信無線通信室

ここにも繋がる「ネットワーク」への劇的な進化を辿ります。

**音声・データ通信の軌跡**…手動交換機からクロスバ交換機、そして黒電話から押しボタン式電話機に至るまで、デバイスの変遷を実機とビデオ説明を利用して展示しています。インターネットには不可欠なローカルエリアネットワーク(LAN)やワイドエリアネットワーク(WAN)の機器についても、寄贈品をベースにしたシステム展示を目指しています。ライフスタイルの劇的な変化を、貴重な実機とともに体感してください。

#### 【Zone 4】アマチュア無線の歴史

プロの通信技術が発達する前に、アマチュア

無線家が短波通信を開拓したのは有名な事実です。

アマチュア無線の聖地…本学の学生や同窓生に多くの熱狂的なファンを持つアマチュア無線別館では、実際に運用可能な操作卓を設置し、世界と繋がる「生きた技術」として、実際に電波を受信しているアマチュア無線局を展示しています。

#### 【Zone 5】電通大の研究成果 現在から未来へ

このゾーンは、別館の中で最もダイナミックに変化し、常に「現在進行形」を提示するエリアです。本学が世界に誇る研究の成果を展示しています。

#### 科学の深淵を覗く「化学遺産」と「天文遺産」

本学の研究は、通信の枠を超え、物質の根源や宇宙の謎にまで及んでいます。その象徴として、二つの歴史的な装置と説明ビデオを展示しています。

ひとつは、「核磁気共鳴(NMR) 分光用磁気コイル」です。NMR技術は、1940年代後半から1950年代初頭にかけて、国際的な研究者によって開発されました。本学では、1949年に着任した藤原鎮男教授が、このNMR分光に必要な磁場を生成するため、磁場強度9000ガウスに達する磁石を手作りし、当時の世界最先端である6ケタの高い精度で銅の核磁気能率値を報告するなど、数多くの核磁気能率を測定しました。この電磁石は、2019年に日本化学会によって「化学遺産第048号」に認定されています。

もうひとつは、「星間塵合成実験装置」です。

この装置は、終末期の恒星の質量放出における固体塵粒子の合成を、マイクロ波放電によるプラズマを用いて再現する画期的なものです。坂田昭氏らによって、マイクロ波導波管の製作から枠組みの溶接に至るまで、すべて手作業で組み上げられた世界に一台しかない貴重な装置であり、2024年に日本天文学会によって「日本天文遺産」に認定されました。

#### 【Zone 6 & 7】実体験とリラクゼーション

知識を体験に変え、感性を刺激する空間です。モールス符号の打鍵体験や、今の子供たちの世代では見る機会のない黒電話の操作、パケット通信の可視化体験などを提供します。また、リラクゼーションゾーンでは、菅平宇宙電波観測所などの遠隔拠点からのリアルタイム映像を投影し、地球規模での「今」を体感できる空間を目指しています。

#### 3 デジタルとリアルの融合…共創進化する展示手法

物理的な展示スペースには限りがありますが、私たちはデジタル技術を駆使することで、その物理的限界を突破しようとしています。

#### 多言語・多機能ガイドランスの導入

各展示コーナーには、高精細なディスプレイが設置され、日本語と英語で説明を提供しています。初心者から技術に造詣の深い方、更に海外からの来訪者まで、来館者の知識レベルに合わせた多層的な情報提供を実現しています。

## AR（拡張現実）による技術の可視化

現役学生たちのプロジェクトにより開発されたAR解説動画は、別館の大きな目玉の一つです。本学の学生が通信技術や歴史を調べて開発したデジタルコンテンツ画像や体験型コンテンツなど、学生にとっての教育の場であると同時に、来館者にとっては技術の「躍動」を感じる場となります。

## 4 地域と社会に開かれた拠点として

別館は、大学が持つ膨大な「知」を地域社会へ還元し、次世代を担う子供たちに科学の魅力を伝える「教育の最前線」でもあります。調布市や学外の団体などと協力し、様々なイベントや活動に取り組んでおります。

## ご寄附への感謝

本学の同窓生が多く在籍していた船舶通信士労働組合からの多大なるご寄附を元に、別館の整備を行わせていただきました。船舶通信という、本学の根幹を支えてきた分野の方々からの熱い想いが、この施設の礎となっております。またミュージアム基金へのご寄附も含めて、この場をお借りし、改めて深く感謝申し上げます。引き続き、本館及び収蔵庫の整備等に活用させていただきます。

## 学術調査員制度とコミュニティの形成

本施設では同窓生の皆様や学外の専門家を「学術調査員」としてお迎えする制度を導入し、昨年度から10名あまりの新しい調査員をお迎えしました。展示品の修復、技術解説の作成、ワークショップの講師など、皆様が長年のキャ

リアで培われた貴重な知見を、後輩や地域の方々に伝える場として、ご協力を頂いております。大学と同窓生や地域の方々と共に学び、共に教え、常に社会に開かれ、人々の好奇心を刺激する場所であり続けること。それが本ミュージアムに託された大きな使命です。

## おわりに…新たな「知の交流」への招待

本学の新たな「顔」として誕生した別館は、皆様をお迎えする準備が整いました。

卒業生の皆様にとっては、ご自身の歩んできた道のりを確認し、母校の絶え間ない進化に誇りを感じていただける場所に、地域の皆様にとっては科学技術が作る明るい未来にワクワクしていただけける場所に、そして現役学生には、偉大な先人たちの肩の上に立って、より遠くの景色を見渡すための足がかりにして欲しいと願っています。

2026年4月より、坂本真樹教授（広報担当副学長）から大家万明（学長特別補佐）に館長を引継ぎ、別館の更なる拡大とともに、本館の本格的なりニューアルに着手します。本館では、展示エリアの見直しとデジタル技術等を利用した分かり易い説明や、英語を使った国際展開を目指し、来訪者への更なる理解度の向上に努めて参ります。

新しく生まれ変わったこの「知の交流拠点」へ、ぜひ足をお運びください。

## 施設概要（2026年4月現在）

名称：UECコミュニケーションミュージアム（別館）

場所：東地区東35号館（青い看板が目印）

主な設備：システム展示エリア、AR体験コーナー、リラクゼーションスペース

開館日：火曜日～金曜日（祝日、本学一斉休業期間等は閉館）

開館時間：10時30分～16時00分（12時00分～13時00分は昼休み）

（週末及び昼休みの開館について検討しています）

団体予約：ホームページ等から予約

入館料：無料

ご寄附によるご支援を歓迎いたします。



館長引継ぎ。左側が筆者

# 目黒会2026年度の活動について

一般社団法人目黒会会長 森 淳



昨年度の目黒会活動は、皆様の温かいご支援とご協力により、ようやくコロナ前の活気を取り戻すことができました。ここに改めて深く感謝申し上げます。

しかし2025年度の決算報告ではかろうじて黒字を確保したものの、就職活動の早期化が進む中で就職支援事業における3月の出展参加企業数の減少や大手人気企業の参加見合わせが増えてきました。その結果、ほぼ一定の会費収入に対して就職支援事業の減収が大きくなり、収益構造の弱さが露呈してまいりました。すなわち本来の会費収入による基盤とのバランスが崩れ始め、2026年度の予算案では赤字計上せざるをえない状況となりました。もちろん収入面だけでなく、近年の物価高、人件費高による大幅な経費増大も要因に挙げられます。来るべく次世代の目黒会に向けて財務体質の強化が必須であります。2026年と2027年の2か年計画で以下の対策を実行してまいります。

## (1) 理事改選

2026年は理事改選の年度であります。今年度は重要な施策についてスピード感を持って

対応しなければなりません。総会では経験重視して2025年度のメンバーを中心に改選が行われました。また、総会直後の臨時理事会において2026年度からの役員の選任と各委員会委員長を選任いたしました（P12）。

## (2) 会費の改定

40年間据え置いてまいりました3,000円の年会費を2027年4月1日より4,000円に改定することが総会において議決されました。2026年は現行会費の最終年度、2027年は新会費の初年度となり、この2年間は次世代に向けた移行期として極めて重要な時期となります。

## (3) 赤字幅の縮小

2026年度予算案は赤字予算となりますが、2025年度の実績を優先した上で、できる限り経費の削減と収益の増加を図り赤字幅を縮小する運営をいたします。経費については出張旅費の減少、収益については学生保護者様へのPR活動強化による賛助会費収入の増加などに注力いたします。

## (4) 同窓会サービス

ご高齢の会員も増えており、人生100年時代を迎える中で、会員の皆様が安心して交流できる場を提供することは、目黒会の重要な使命と考えております。「参加したくなるホームカミングデー」をはじめ、コミュニケーションサービスの一層の充実や時代の要請に応じた取り組みを進めてまいります。

## 結び

組織としての継続性と活力の維持も欠かせません。若返りやコンプライアンスを意識しつつ、ガバナンスの強化を図り、会員一人ひとりの「仲間への思い」と「結び」を大切にしたい運営を進めてまいります。

皆様の変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 2026年度 新体制表 (委員会)

委員会名	委員長
規則委員会	古川 浩規
財務委員会	水戸 和幸
就職委員会	西山太一郎
会員サービス委員会	帯金 幹夫
国内支部委員会	中村 憲一
海外支部委員会	古川 浩規
グループ委員会	鷺頭 浩一
広報委員会	高橋 真之
学術講演委員会	上田 敏樹
社会貢献委員会	水戸 和幸

## 2026年度活動方針の具体的展開

### 1 大学と同窓会の連携強化（定期連絡会の継続）

ホームカミングデーを7月19日（日）に開催（オープンキャンパスと同日）

- ・昼食の無料お弁当サービス
- ・グループ会の活動紹介交流会を昼食時に開催
- ・ウエルカムパーティーで「支部自慢地酒コンテスト」を開催

### 2 卒業同窓生へのサービス拡充

会員サービスメニューの拡充

- ・シニア向け新サービスの企画
- ・若手会員向けサービスのPR強化

### 3 在学生へのサービス拡充

- (1) 3月開催の企業研究展示会の参加企業数を増加
- (2) 就職活動早期化の支援対策を強化
  - ・業界研究会の開催回数を増加（5月、9月に開催）
- (3) 学生正会員に対する国際学会参加費の支援継続
- (4) 学生サークル活動支援を強化

### 4 同窓会ラウンジサイトの企画強化

- (1) 写真ギャラリーのテーマ別企画を継続
  - ・ご当地桜、花火大会、秋の紅葉、冬のイルミネーション、私の好きなシリーズ（世界遺産など）
- (2) お役立ち情報の投稿掲載数の増加

### 5 スマートテクノロジーフォーラム開催推進

テーマ：量子コンピュータが切り拓く次世代イノベーション —基礎から社会実装への動向—

日 時：2026年10月2日（金）14:00～17:40

場 所：創立80周年記念会館3階

## 新理事紹介



### 西山太一郎 氏

#### ●プロフィール

1973年機械工学科入学  
 1977年機械工学専攻入学  
 1979年日産自動車(株)入社  
 2005年日産車体(株)転籍  
 現在、目黒会事務局就職支援担当

日産自動車では主に騒音振動性能開発を担当後、ルノーから来日した経営陣の下で新型セダンのティアナや商用車のキャラバンなどの商品企画責任者を経験しました。その後、目黒会にて学生の就職相談や企業説明会の企画運営などを担い現在に至っております。毎年、機械工学科やゴルフ部の仲間と親交を温めております。この度、新任理事として目黒会の活動に少しでも貢献できればと思っております。よろしくお願いたします。

## 羅針盤

学長就任のご挨拶

# 変化の時代に、 電気通信大学の強みを 未来へつなぐ



電気通信大学長  
**村松 正和**

このたび、2026年4月より電気通信大学長に就任いたしました村松正和です。目黒会の皆様をはじめ、日頃より本学を支え、見守ってくださっている卒業生の皆様に、まずは心よりご挨拶申し上げます。長い歴史の中で築かれてきた本学の伝統を受け継ぎながら、新しい時代にふさわしい大学の姿を形にしていけることが、私の責務であると考えています。

## 1 時代の転換点に立つて

生成AIの登場により、社会は大きな転換点を迎えています。知識や情報にアクセスすること自体のハードルは急速に下がり、「知っていること」「そのものよりも」「何を考えるか」「どう判断するか」さらには「どのように新しい価値

を生み出すか」が、これまで以上に問われる時代になりました。AIは産業、研究、教育、日常生活にまで深く浸透し始めており、社会の仕組みそのものを静かに、しかし確実に変えつつあります。

加えて、日本社会では少子化が進んでいます。18歳人口は1966年をピークに減少を続けており、2040年の大学進学人数は約46万人となることが予想されています。これは現在の大学定員規模のおよそ7割にあたる数字であり、国立大学にも縮小や効率化の圧力が強まっています。

電気通信大学は、これらの流れに受け身で対応するのではなく、自らの強みを明確にし、進

化を続けることで、社会に対して新たな価値を示す大学でありたいと思います。情報理工系の確かな基盤の上に、新しい時代にふさわしい教育研究のかたちを示し、縮小の時代にあっても、むしろ存在感を高める大学を目指します。

## 2 電気通信大学の強みと挑戦

本学の大きな特徴は、情報・通信を中核に、機械、量子、材料、光、経営工学など、情報理工系の多様な領域が高密度に集積していることです。半径300メートルほどのキャンパスの中に、分野の異なる研究者や学生が集い、学び、議論し、新たな発想を生み出す環境があります。この近さ、密度の高さは、本学ならではの大き



図1 半径300m以内に多様な教育研究分野をもつ電気通信大学

な価値であり、分野を超えた学びや研究を生み出す土壌にもなっています。

この「密度の高さ」を背景に、本学の教育においては、専門を徹底的に深めることに加え、工房教育や副専攻などを通じて、学生が専門以外の領域にも関心を広げ、自ら挑戦できる機会を整えてきました。2026年1月には「エンタテインメント創造研究教育センター」を立ち上げ、従来の枠にとらわれない新しい学びの場を広げつつあります。現在、同センターではゲーム開発人材育成のための副専攻立ち上げに向けた準備を進めています。こうした横断的な教育をさらに充実させ、学生が自ら専門の境界を越えていくことを後押ししていきます。これからの時代に必要なのは、知識を受け取るだけの人材ではなく、異なる知を結びつけ、新しい価値を構想し、社会に提示できる人材です。電気通信大学は、そのような人材を育てる大学を目指しています。

本学の研究の強みは、通信の歴史に根ざした伝統の上に、光・レーザー、ロボティクス、データサイエンス、AI、量子などの先端領域を切り拓いてきたことにあります。無線通信の時代から社会を支えてきた本学は、いまま情報通信分野をはじめ、幅広い情報理工系分野で先端的な研究を進めています。実際、本学は情報通信分野の論文数で日本の大学の中で際立った実績を有しており、本学の研究力を示す一つの指標となっています。さらに、論文として成果を発信するだけでなく、それを社会との接点の中で育て直し、新たな価値へと結びつけていく

点も本学の特徴です。たとえば、離島向けソーラーシェアリングの実証、調布ごみナジの試験運用など、地域や企業と連携した取組が着実に広がっています。学内外の多様なステークホルダーとの共創拠点として整備したP&E棟も、そうした動きを支える重要な基盤です。研究を大学の中に閉じず、社会と往還させながら発展させていくことは、本学らしい研究の姿の一つです。

### 3 卒業生とともに歩む大学へ

そうした大学の歩みを支えてきたのは、言うまでもなく卒業生の皆様です。1918年の創設以来、本学は時代の変化に応じて教育研究の領域を広げ、多くの優れた人材を社会に送り出してきました。その歴史は、卒業生の皆様お一人おひとりが、それぞれの分野で積み重ねてこられた挑戦と実績によって形づくられてきたものです。大学の名は、キャンパスの中だけで育つのではなく、社会の現場で活躍する卒業生によって磨かれていくのだと、私はあらためて感じています。

とりわけ本学は、長年にわたり多くの船舶通信士を輩出し、我が国の通信の発展を支えてきた歴史を持っています。そうした卒業生の皆様との深いつながりは、今なお本学の大切な財産です。今年開館した「UECコミュニケーションミュージアム別館」も、そうした歴史の延長線上にあります。船舶通信士の方々の組合からのご寄付を基に整備されたこの別館は、本学の歩みと、それを支えてこられた卒業生の歴史を、

次の世代へと伝えていく象徴的な場となっています。ぜひ一度、ご覧になっていただければと存じます。

これからの大学は、卒業生との関係もまた、新しい段階に入っていく必要があります。もちろん、同窓会はこれまでも大学と卒業生を結ぶ大切な基盤でした。しかし今後は、それに加えて、知見、経験、ネットワークを持つ卒業生の皆様と大学とが、より立体的に結びつき、ともに価値を生み出していく関係がいつそう重要になるでしょう。学生にとっては、先輩方の姿そのものが将来を考える上での大きな道しるべになります。大学にとっても、社会の第一線で活躍する卒業生との対話は、教育研究を時代に即して進化させる上で欠かせません。

### 4 未来に向けて

大学は、学生、教職員、そして卒業生の皆様によって育てられていくものだと思います。とりわけAI時代においては、大学が社会とどうつながり、どのような価値を生み出していくかが、これまで以上に問われています。そうした歩みをより確かなものにするためには、卒業生の皆様とのつながりが欠かせません。電気通信大学という共通の原点を持つ者どうしが、これからも互いに支え合いながら、次の世代の学びと挑戦を後押ししていく。そうした関係を大切に育んでいきたいと思えます。今後とも、本学への変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。



## 2026年度 支部総会のご案内

支部総会では、来賓挨拶（電気通信大学長、目黒会長）、前年度活動報告・会計報告、今年度活動計画・予算案、役員改選などが行われます。各支部の総会の予定は下記のとおりです。  
なお、支部総会に参加ご希望の方は同封のはがきにてお申込みください。

### 北海道支部

日時：2026年9月26日（土）16:00～  
場所：札幌市（詳細未定）  
特別講演：未定  
懇親会：総会会場近くの飲食店等  
オプションツアー：未定



### 東北総支部

日時：2026年6月20日（土）  
場所：宮城県本吉郡南三陸町黒崎 99-17 南三陸ホテル観洋  
URL：<https://www.mkanyo.jp/>  
特別講演：実施予定  
懇親会：南三陸ホテル観洋 懇親会場で実施  
オプションツアー：東日本大震災語り部バス



### 北陸支部

日時：2026年10月17日（土）  
場所：石川県内  
特別講演：未定  
懇親会：未定  
オプションツアー：検討中



### 首都圏総支部

日時：2026年9月12日（土）14:00～19:00 設立20周年記念総会  
場所：100周年記念ホール（オンライン併用）  
14:00～ 開会、首都圏総支部総会、ご来賓挨拶  
15:10～ 記念講演：「第66次南極地域観測隊に参加してみた」  
講師：浜路 雅美様（2003年電子工学科入学）  
16:30～ 懇親会：大学会館3階ハルモニアにて 特別企画お楽しみに！



### 長野支部

日時：2026年7月4日（土）15:30～20:00  
場所：長野県松本市 ホテルモンターニュ松本 URL：<https://www.hotel-montagne.com/>  
特別講演：「目視検査と天空のラボ」  
講師：石井 明様（香川大学名誉教授）  
懇親会：18:00～20:00 総会及び講演後、同一ホテル会場にて開催  
アクセス：JR松本駅西口より徒歩1分  
オプションツアー：松本駅周辺で検討中



## 東海支部

日時：2026年11月14日（土）

場所：名古屋市（予定）

特別講演：未定

懇親会：総会会場近くの飲食店を選定予定



## 関西総支部

日時：2026年6月6日（土）16:00～20:00

場所：JR 新大阪駅東口前 エブリグランデ新大阪（大城ビル 201号）

特別講演：「これからの Display への期待」

講師：野々村 欽造様（目黒会元会長）

懇親会：18:00～海鮮処さくら水産（予定）会費 5,000円



## 中国地方支部

日時：2026年6月27日（土）14:30～

場所：広島駅前 エールエールA館会議室（オンライン併用）

URL：<https://www.rccbc.co.jp/kaigi/yaleyale/>

特別講演：「命名とキャッチコピーによるイメージ戦略」

講師：梶谷 誠様（電気通信大学 元学長）

懇親会：17:00～総会会場近隣



## 四国支部

日時：2026年9月5日（土）14:30～

場所：高知会館

〒780-0870 高知県高知市本町5丁目6-42 高知会館内1F

URL：<https://www.kourituyasuragi.jp/kochi/>

特別講演：調整中

懇親会：高知会館内会場にて



## 九州支部

日時：2026年10月10日（土）16:00～

場所：福岡県古賀市薬王寺81 鬼王荘

URL：<https://oniouso2517.amebaownd.com/>

特別講演：未定

懇親会：鬼王荘にて（宿泊も九州支部にて事前予約）

オプションツアー：鬼王荘宿泊者には検討



# 一般社団法人目黒会 第83回定時総会 開催報告

目黒会事務局

2026年5月22日（金）、創立80周年記念会館（愛称・リサージュ）3階において、村松電気通信大学長による総会特別講演に引き続き、午後3時30分より一般社団法人目黒会第83回定時総会を開催いたしました。代議員30名中、出席者24名、議長委任6名、合計30名の出席率100%で定足数を満たし、総会が成立しました。定款の定めるところにより森目黒会長を議長とし、議案審議に入りました。

第1号議案の「定款の改訂について」は、正会員資格に関する改訂が説明されました。第2号議案の「2025年度事業報告並びに財務諸表等の承認について」は、地域貢献事業、就職支援事業、同窓会事業、会員サービス事業などの事業計画に対する実施報告後、2025年度の決算財務諸表、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録などが説明されました。説明後、監事より監査報告がありました。第3号議案の「当期正味財産の処分について」、第4号議案の

## 2026年度 目黒会役員（理事・監事）一覧

役職名	氏名	入学年	入学学科
会長	森 淳	1967	通信工学科
副会長（新）	帯金（オビカネ） 幹夫	1971	物理工学科
副会長	高橋 真之	1986	通信工学科
副会長	中村 憲一	1991	機械制御工学科
副会長	古川 浩規	1997	情報工学科
専務理事	水戸 和幸	1995	電子情報学科編入学
業務執行理事	上田 敏樹	1972	電子計算機学科
業務執行理事（新）	西山 太一郎	1973	機械工学科
業務執行理事（新）	鷺頭 浩一	1977	応用電子工学科
理事	陳 肇文（チン・ショウブン）	1979	応用電子工学科
理事	中里 明子	1981	機械工学第二学科
理事	青木 実	1982	通信工学科
監事	芳賀 克己	1965	電子工学科
監事	菅谷 寿鴻（トシヒロ）	1965	電波工学科

「会費の改定について」、第5号議案の「2026年度理事・監事の選任について」の説明後、一括審議を行い、少額の黒字ながら第1号議案、第2号議案、第3号議案、第4号議案、第5号議案はすべて承認可決されました。引き続き報告事項に入り、2026年度目黒会活動方針、2026年度事業計画並びに損益予算書について報告がありました。損益予算書については、赤字計上せざるをえない状況であり、出張旅費の減少などによる経費削減と、企業様向けイベントへの参加企業様増加による収益増加を図り、

赤字幅を縮小する運営を行う旨説明がありました。

総会終了直後に、別室にて2026年度臨時理事会を開催し、理事の役職者（会長、副会長、専務理事、業務執行理事）と監事を満場一致で選任いたしました。2026年度の理事・監事の役員は右表のとおりです。

総会終了後、学長以下大学の役員の方々にもご出席いただき、総会懇親会を学生会館3階ハルモニアにて開催いたしました。

2026年

# 電気通信大学同窓会賞

## 電気通信大学同窓会賞とは

電気通信大学は現在までに多数の卒業生を送り出しています。世界の各方面で活躍している卒業生のうち、科学技術の研究業績ならびに社会貢献が特に顕著な方に、電気通信大学同窓会「一般社団法人目黒会」が「電気通信大学同窓会賞」を授与してその功績を称え、同窓生の方々にも広く認めていただくことにしているものです。1995年からこれまでに39人の方々を受賞されています。同窓会賞表彰式は4月6日の入学式終了後に行われ、目黒会森会長から表彰状を授与しました。

## 嶋本 薫 氏



### 経歴

- 1985年 電気通信大学電気通信学部通信工学科卒業
- 1987年 電気通信大学大学院電気通信学研究科通信工学専攻修了
- 1987年 日本電気入社
- 1991年 電気通信大学電気通信学部助手
- 1992年 群馬大学工学部助手
- 1993年 工学博士（東北大学）
- 1994年 群馬大学工学部助教授
- 2000年 早稲田大学大学院国際情報通信研究科助教授
- 2002年 早稲田大学大学院国際情報通信研究科教授
- 2008年 スタンフォード大学客員教授
- 2014年 早稲田大学基幹理工学部情報通信学科教授
- 2020年 早稲田大学国際情報通信研究センター 所長 現在に至る

嶋本薫（しまもと しげる）氏は1985年、電気通信大学 電気通信学部 通信工学科を卒業され、1987年、電気通信大学 大学院電気通信学研究科 通信工学専攻を修了されました。その後日本電気に入社されたあとは、電気通信大学の助手や群馬大学工学部の助手、助教授、早稲田大学 大学院国際情報通信研究科助教授、教授として学際分野でご活躍されてきました。

同氏は、中学生時代にBCL（海外短波放送受信）が一大ブームとなり、短波ラジオを片手に海外の珍放送局の探索などを行って、日々刻々と変化する電波伝搬状況に一喜一憂し、独学で無線通信の勉強をし始めた経験をお持ちです。

これらの経験をもとに、大学院修士時代から世界初の衛星データ通信ネットワーク構築の研究に従事し、その後大学で教員になられてからは低軌道衛星、成層圏飛翔体、航空機間通信などの研究発表を世界に先駆けて行ない、今では宇宙エレベータ通信まで手掛けておられます。また同時に6G通信の実現に向けた地上系モバイル通信や光や無線を組み合わせたバイタルセンシング（生体情報計測）の研究など、幅広い分野に取り組んでおられます。

嶋本氏の長年にわたる航空宇宙通信や衛星通信などの研究は、国内外で高い評価を受けています。

2024年度には科学技術分野で顕著な功績があったとして「航空宇宙通信の多角的な研究」で文部科学大臣表彰を受賞されています。また、電子情報通信学会やIEEEの学会などで専門委員、幹事、座長などを数多く務められてきました。

Unique & Exciting



研究編

宮本 友樹

大学院情報理工学専攻 情報学専攻  
情報理工学域 I 類 (情報系) 助教  
<https://www.t-interaction.lab.uec.ac.jp>



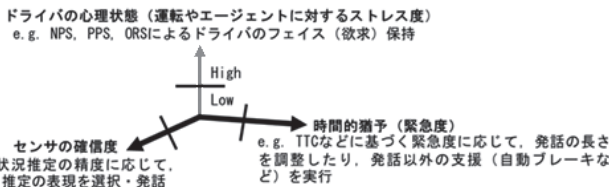
# 宮本友樹研究室

## 工学研究の立場から人と対話 AI の良い関係性とは何かを考える

宮本研究室は、2022年4月に発足したばかりの新しい研究室です。ヒューマンエージェントインタラクション (HAI) という研究分野を専門としており、端的に言えば人と人工知能 (AI) の理想的な関係性を学際的に追求しています。特に、人と AI の対話に焦点を当てています。2026年4月からは、大学院生4名、学域生1名が所属して、規模としてはまだまだ小さい研究室であるものの、近年の生成 AI の普及もあり、ホットな研究領域を扱っています。

工学的に高度な対話 AI の技術開発を目指す研究室は国内に数多くありますが、宮本研究室の独自性は「人がどう思うか、どう解釈するか」という心理的側面を重視した研究を行っている点にあります。2025年12月26日に公開された「行動医学研究」誌に掲載されたスコーピングレビュー論文「日本における AI 技術を用いた心理的介入の現状と課題」では、2013年1月1日から2024年6月13日までに日本語で報告された国内の文献が網羅的に調査されました。この調査において、国内の主要文献データベースから抽出された、AI を用いた心理的介入に関する文献は286件確認されたものの、厳格なスクリーニングを経て最終に残った論文はわずか4件でした。その中で、チャットボットの発話戦略がユーザー心理に与え

る影響を検討した実験研究として、私の研究が国内唯一の事例として特定されています。私がメインで行っている研究トピックは、主に二つあります。一つは、言語的配慮を考慮した対話モデルに関する研究です。個別の研究は多くありますが、最近では、車載ロボットの運転支援発話を決定するためのフレームワークを提案しました (図1)。このフレームワークでは、ドライバーの心理状態・センサの確信度・緊急度の三要因で運転状況を定義します。これに、



s	c	e	発話	構成要素	戦略
L	L	L	歩行者がいるかも、避けられる?	環境+ヘッジ+行動	iNPS
L	L	H	歩行者がいるかも、	環境+ヘッジ	iORS
L	H	L	歩行者がいるね、避けられる?	環境+行動	iNPS
L	H	H	歩行者がいるね、	環境	iORS
H	L	L	歩行者がいるかもしれませんが?	環境+ヘッジ+行動	fNPS
H	L	H	歩行者がいるかもしれません、	環境+ヘッジ	fORS
H	H	L	歩行者がいますね、避けられますか?	環境+行動	fNPS
H	H	H	歩行者がいますね、	環境	fORS

図1: 運転支援ロボットの発話決定フレームワーク (宮本 et al., 2025)

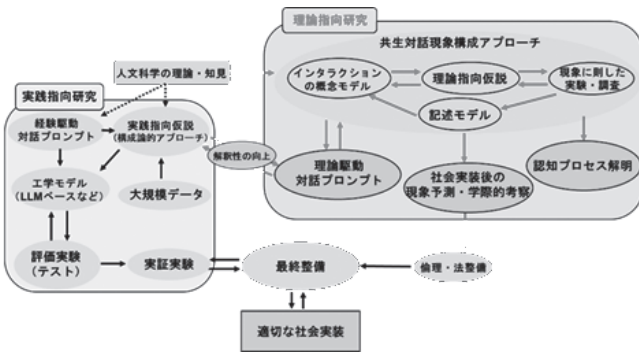


図2：理論指向型インタラクション研究フレームワーク（宮本，2025）



図3：エージェント導入者を考慮したHAIフレームワーク（渡邊さんの研究成果）

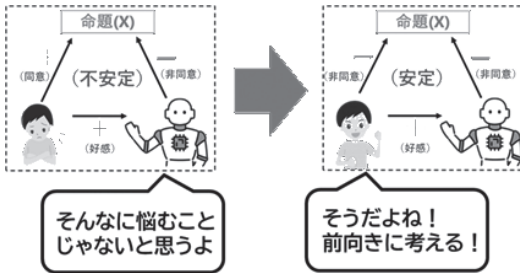


図4：認知的変化を促すための非同意的対話戦略（眞柄さんの研究成果）

環境・行動・ヘッジ（ぼかし表現）という三要素からなる発話構文を組み合わせることで、運転支援エージェントの発話を決定します。これにより、支援の妥当性を担保しつつ、ドライバーに受け入れられやすい、受容性の高いインタラクションが実現可能となります。この研究は、人工知能学会全国大会（JSAI2025）において全国大会優秀賞（一般セッション口頭発表部門）を受賞しました。

もう一つの研究は、「人と対話エージェントの理論指向型インタラクション研究」という領域の体系化を目指した理論研究です（図2）。前述のレビュー論文が示しているように、人とAIの対話において、人がどのようなメカニズムで対話AIの振る舞いを解釈し、それによってどのような心理的・認知的影響を受けるのかすなわち人とAIの対話原理を科学的に解明するような研究は、実は非常に限られており、方法論は全く確立されていません。このような問題意識のもと、従来の対話AI研究を理論指向と実践指向という二つの領域に分け、それぞれの役割と相補性を示す研究フレームワークを提

案しました。まだまだ構想段階の萌芽的な取り組みですが、国内学会で発表賞を頂くなど少しずつ評価していただいています。

学生さんと一緒に進めている研究トピックはみんなの興味・関心を尊重して比較的自由に設定しているため多岐にわたります。2026年3月には、当研究室として記念すべき初の大学院生2名が修了しました。うち1名（渡邊英一郎さん）は、人が対話AIおよびその導入者（提供元の企業など）に対して信頼や責任を帰属するメカニズムを解明するための理論/実験の枠組みを提案し、もう1名（眞柄圭佑さん）は、ユーザの悩み事に対してあえて非同意的な立場をとることでポジティブな認知的変化を促す対話AIの設計論と実装方法を提案しており、いずれもHAI分野のトップ国際会議に採択されるなど対外的に評価されています（図3、図4）。これらの研究トピックは、人とAIの良い関係性とは何か？という哲学的な問いを工学研究の立場からも考えていく必要があることを示唆しています。

今後は、工学的な実装力と心理学的な洞察を両輪とし、人のウェルビーイングを高める対話AIの設計指針を確立させていきます。発足して間もない研究室ですが、学生さんと共に「人とAIの理想的な共生」という問いに挑み続けます。

Unique &  
Exciting

研究編

村松 大陸

大学院情報理工学専攻 機械知能システム学専攻  
情報理工学域Ⅱ類（融合系）准教授  
<https://mdairoku.com/>



## 村松大陸研究室

# 生体と電磁波の相互作用が拓く新領域



図1 研究室における生体と電磁波の相互作用の測定

恋人同士が腕を組んで同じ音楽を共有する、自動販売機や改札機に指で触れて電子マネーで決済する、スマートウォッチには自身のあらゆる生体情報が表示される――。こんなSFのような技術が現実のものになる日も近いかもしれません。自分の体に微弱な電磁波を流して人体そのものを情報の通り道にすることや、体内環境に応じて変化する電磁波の挙動から自身の脈拍や血糖値を知ることができるのです。村松研究室では、工学や医学にまたがる「生体電磁工学」を専門領域として、生体と電磁波の相互作用を解明し、情報通信・医療ヘルスケア・ヒューマンインタフェースなど様々な技術分野に応用することを目指しています（図1）。

キーワードのひとつは、ユーザが身につけて

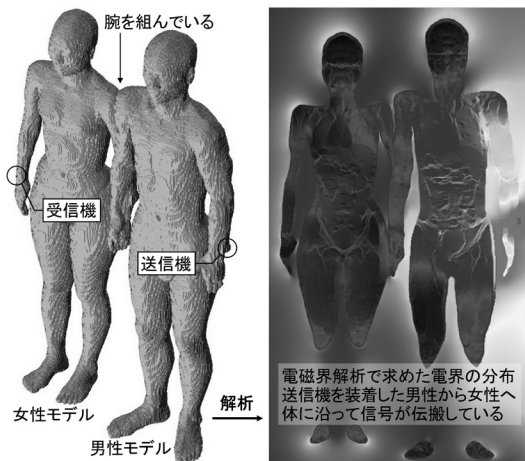


図2 人体を伝送路とする「人体通信」技術

使う「ウェアラブル機器」です。時計や指輪、メガネや衣服など、すでに多彩なウェアラブル機器が商品化され、スマートフォンなどと連携してヘルスケアや電子マネー決済に使われていますが、まだ爆発的な普及には至っていません。私たちがウェアラブル機器普及の鍵として期待しているのが「人体通信」です（図2）。人体通信は誘電体である人体そのものを高周波信号の伝送路として利用する無線通信技術の一種です。私たちの体を有効活用することで、電磁波が遠方に放射せず人体周辺に局在し、低ノイズかつ省電力の通信ができることが特徴です。また、人体表面の電界や電流が通信に寄与するため、体のどこで触れても通信可能なインタフェースとして機能します。そして、体に装着

した電極（アンテナ）を介して人体と通信機器を接続するため、人体に直接触れるウェアラブル機器との相性が非常に良いです。村松研究室では、人体通信の応用例として、体中に装着した生体センサ同士をつなぐ、ヘルスケアネットワーク、センシングと通信を同時に行う生体バックスキヤッタ技術、複数ユーザの触れあいによるデータ共有基盤など、多種多様なシステムを提案し、一部はスマホアプリの開発なども含めたデモシステムとして実現しています。

また、人工心臓やペースメーカーなどの体内に埋め込まれた「インプラント医療機器」と、体外の制御機器との通信についても研究しています。こうした体内―体外間の無線通信では、通常400MHz以上の高周波が用いられます。しかし、この帯域では水分を含む生体組織で電磁波が吸収されて消費電力が増大したり、電磁ノイズを放射することで周囲の医療機器に干渉し誤動作を引き起こしたりする問題が指摘されています。一方、私たちが人体通信で培ってきた技術をインプラント医療機器の通信に応用すると、数十MHzの電磁波を低損失な生体組織を通り道にして伝搬させることができます。この方法なら、電磁波が放射しにくいため電力消費や干渉を低減できるだけでなく、悪意ある攻撃者によって体内の医療機器を不正に操作されるリスクを減らし、セキュアな通信を実現できます。これまでに、慢性疼痛治療に用いる腹部埋込型の脊髄刺激装置を想定したシステムで、提案手法が高い通信品質と安全性を両

立できることを実証しています。

また、生体と電磁波の相互作用を生体信号センシングに応用する研究にも注目しており、例えば、非侵襲的血糖モニタリングに取り組んでいます。糖尿病の患者さんには日常的な計測に基づく血糖コントロールが不可欠です。しかし、現在は酵素電極による侵襲計測が一般的で、採血の痛みや手間、消耗品コストが問題となっています。私たちは、バイオインピーダンスを評価指標とした非侵襲的な血糖モニタリング法を提案しています。手首に貼り付けた電極で測定されたインピーダンスは、血中グルコース濃度と高い相関があることを被験者実験で確認しました。このように身体を傷つけずに簡単に血糖値を知ることができれば、予防医療や日常のヘルスケアにも大いに役立つでしょう。

さらに、ヒューマンインタフェースへの応用として、指の電磁応答に基づいてスマートフォンを操作する指の種類を識別する方法を提案しています。5本の指はそれぞれ長さや太さが異なるため、電磁波の反射や透過特性に変化が生じます。この変化を適切に捉えて指を識別できれば、操作する指ごとに異なる機能を割り当てるなどして、情報入力性能を飛躍的に拡張できます。このほかに変わり種の研究として、電磁波を利用して食肉の品質を評価する技術開発にも取り組み、これまで接点のなかった食品産業界にも踏み出しています（図3）。従来の食肉の品質評価は、官能検査や理化学検査などの破壊検査が一般的でした。電磁波を検査に利用す

ることで、非侵襲かつ非破壊で脂肪交雑や熟成度（タンパク質の分解状況）を測定できる可能性があります。将来この評価技術が実現すれば、スーパーに並ぶ食肉のラベルには、食感や風味、うま味などの「おいしさ」に関する多様な情報が記載されるようになるでしょう。

このように、村松研究室では生体と電磁波に関する様々な応用研究を行っています。今後は特に、これまでも注目してきた通信や医療ヘルスケアだけでなく、食品、物流、アパレルなどの新分野にも積極的に展開していく予定です。私たちがこれまで連携してこなかった分野や業界からご相談をいただきながら、新たな応用技術を開拓したいと考えています。

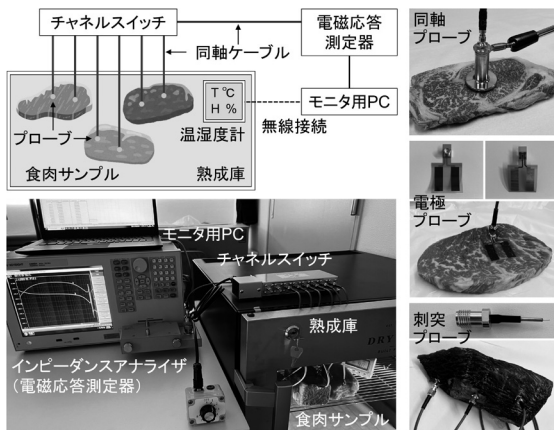


図3 食肉の誘電応答に基づく肉質評価技術

Unique &  
Exciting

研究編

谷口 淳子

大学院情報理工学専攻 基盤理工学専攻  
情報理工学域Ⅲ類（理工系）准教授<http://lt.phys.uec.ac.jp/>

## 谷口淳子研究室

### 低次元系における量子物性の研究

#### 研究室の概要

谷口研究室は、低温技術を生かして、量子流体やナノトライボロジーの実験的研究を行っています。2004年の着任以降、「鈴木・谷口研究室」として様々な基板に吸着したヘリウム吸着膜の滑り摩擦やナノ細孔中ヘリウムの物性を調べ、ヘリウムの持つ量子性もたらず多様な現象を明らかにしてきました。2025年3月に鈴木教授が退任された後は「谷口研究室」として、ヘリウム以外の物質にも注目して、低次元系における量子物性の研究を進めようとしています。

研究室は、例年卒研究生1〜3名、修士課程2〜5名が所属する比較的小規模なものです。が、昨年の鈴木先生御退任記念祝賀会には50名近い卒業生が集まりました。卒業生の多くは製造・情報系の技術開発・研究に携わっておられますが、分野によらず、大学時代に低温用の実験装置を自作した経験が大変役立つというお話を伺いました。大変ありがたく、同時に一層研究・教育へ邁進していこうと思った次第です。

#### 最近のトピックス

― 1次元系に超流動は現れるのか ―

液体ヘリウムを液化温度よりさらに冷やしていくと、粘性を失って抵抗なく流れる超流動という現象が現れます。そのため、トーラス容器

中の液体ヘリウムは永久流（流速が臨界速度で律速され、一定の流速で流れ続ける状態）となります。これは、ヘリウムが量子性の高い物質であり、低温で系全体にわたって一つの波のように振る舞うために起こります。近年、このような量子性の高い物質をナノスケール（原子数個〜10個分）の空間に閉じ込めた時の振る舞いに興味もたれています。ヘリウムを直径が2〜3 nm程度のナノ細孔に閉じ込めた系（1次元系）では、断面内に波が十分広がることができなくなり、そのため、長い間1次元系では超流動はないと考えられてきました。ところが、近年の合成・微細加工技術の発展により、様々なナノ細孔を用いた実験が可能となり、奇妙な超流動現象が現れることがわかってきました。

ナノ細孔中液体ヘリウムの超流動は、ナノ細孔を充填したねじれ振りをを用いて観測します。粘性を消失すると、液体ヘリウムはナノ細孔の運動に追従しなくなるため、ねじれ振りの共振周波数が上がります。この共振周波数の変化から、ナノ細孔中では、超流動が現れる温度 ( $T_c$ ) が強く抑制されること、また、常流動（粘性がある状態）から超流動への転移が緩やかになることがわかってきました。さらに、超流動が有限の寿命を持つようになり、ねじれ振りの周期を長くすると、 $T_c$  は抑制されてしまいます。

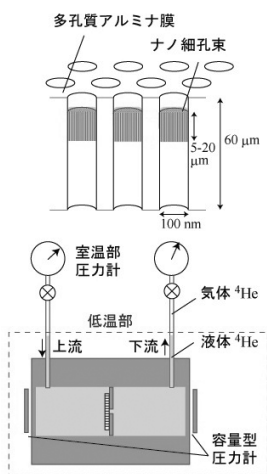


図1. ナノ細孔膜試料と測定系

## 最新の研究紹介

— 1次元ナノ細孔中液体ヘリウムの流れ —

当研究室では、奇妙な超流動が観測される孔径（3 nm）で、ナノ細孔中液体ヘリウムの流れを調べています。まず、図1上図に示すように、100 nm程度の孔がもともと開いている多孔質アルミナ膜の孔の中に、孔径3・4 nmの均一にそろったナノ細孔束を合成します。ナノ細孔は、まっすぐかつ膜に垂直に配向しています。この多孔質膜で仕切られた測定系を用意し、その両側の圧力を低温部で直接測定するため、容量型圧力計を自作しています（図1下図参照）。膜の両側の圧力を平衡にした後、下流側のみ瞬間的に減圧して初期差圧を印加します。そしてその後の圧力緩和を観測します。図2(a)上に典型例を示しましたが、上流側圧力(○)は下

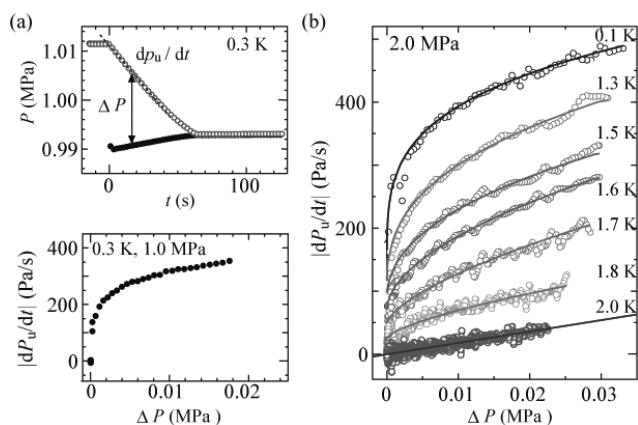


図2(a) 圧力緩和とそれから求めた圧力緩和率の例 (1.0 MPa)  
 (b) 2.0 MPa ( $T_0=1.2$  K) における圧力変化率の差圧に対する変化

に凸（下流側もわずかに上に凸）になっていきます。これは、細孔中の流速が一定ではなく、 $v_p$ に依存すること、すなわち従来の臨界速度という概念が成り立たないことを示唆しています。より詳細に議論するため、上流側の圧力変化率  $(-dp_u/dt)$ （流速に比例する量）を求めると、 $v_p$ が小さい領域では急速に増加し、 $v_p$ が大きくなるにつれ、徐々にその増加は緩やかになります（図2(a)下図参照）。図2(b)に示すように、この上に凸の振る舞いは、 $T_0$ より高温まで存続し、2・0 Kで消失しました。膜の両側にある液体

ヘリウムも常流動となる2・0 Kでは  $v_p$ に比例したことから、この温度では粘性流の振る舞いを示すことがわかります。1・8 K以下のデータを  $v_p$ のべき関数でフィットしたところ、図2(b)中の実線で示すように、よく再現されました。流速のべき的な振る舞いは、1次元系の特徴とされており、本実験はまさにその特徴をとらえたものと考えています。これまで、1次元系の輸送現象は主に、カーボンナノチューブや量子細線など電子系で研究されてきましたが、本研究は、ナノ細孔中液体ヘリウムが新たなフロンティアとなる可能性を示唆しています。

## 今後の展望

1次元系の超流動は、従来の臨界速度という概念が成り立たず、流速が差圧に対しべき的な依存性を持つことがわかってきました。このように超流動にも常流動にも分類できないような奇妙な状態だからこそ、常流動ではありえない高速輸送が実現し、しかもその速度を差圧で制御できる可能性があります。特に、ナノ細孔中では常流動になっているはずの温度領域でも高速輸送が出現したことは非常に興味深く、そのメカニズムが解明できれば、ナノスケールにおける輸送現象の制御に向けて、重要な指針が得られるかもしれません。

Unique &  
Exciting

キャリア編

## 高木 誠利

1980年電波通信学科 (R) 入学  
文化放送ディレクター・プロデューサーラジオ制作 (ディレクター・プロデューサー) と  
技術評論家の二刀流人生

調布ネットワークをお読みの皆さん、こんにちは。私は現在64歳、ラジオ局の文化放送に勤務しています。電気通信大学は専門家を作り出す大学ですから、普通、誌面を飾るのは「道を極めた専門家・達人」ではないかと思いますが、私は間違いなく道を極めていません。でも電通大にはこういうOBも居るんだ！、という優しい心で経歴話を聞いていただければと思います。

## 電通大を志願した理由

アマチュア無線の試験の願書を出したのが小6の時、4月をまたいだ中1で最初の無線従事者免許証を手に入れました。私の通信との付き合いはこの時からです。大学を選ぶ際にも「通信」を覚えてくれる大学を探しましたが、どこも電子工学や情報通信ばかりで、本当に純粹な通信を専門分野に持つ大学は全然見当たりません。そこで選んだのが電通大。当時の学科名は電気通信学部電波通信学科！通信のプロになれそうな気がしませんでした。

## 学生生活

あまりまじめな学生ではありませんでした。数学は苦手でしたし実験のレポートはとことん手を抜く(でも全部優)学生でした。アルバイトもいろいろしましたが、一番役に立ったのは業務用ビデオのシンクロナイザー、つまり編集用タイミングマシンの設計補助の仕事です。回路の設計法を学べました。卒業研究は中波大電力放送が海上移動通信に与える影響。クラスメートのA君との共同研究で、私は通信機の特性的問題、A君はラジオ局の置局と免許の観点

からレポートをしています。船の通信機に突っ込みを入れた私はラジオ局へ、ラジオ局の配置の問題から切り込んだA君は船会社へ就職しましたが、これは偶然です。船酔いの問題さえなければ私も船の通信士になっていた筈ですから・・・。

## 就職

予想通りの船酔いに苦しみながら貨物船での乗船実習を終えた時には大学推薦の就職試験シーズンは終わっていました。そこで研究室の宮坂教授に相談したら文化放送が募集をしているということに応募。あっさり面接3回で採用になります。とにかく入ってしまったのは防人同然の職場でした。

## 雑誌デビュー

技術採用なのでそのまま技術部へ、そして送信所勤務となりました。当時有人の送信所は他局ではNHKの菫蒲久喜だけ。菫蒲久喜は研究所ですがこちらはただの留守番です。当然、辞めてやる。となりますが、上司から戻ってきたのは「何をしても良いから居てくれ」という言葉でした。そこで周りを見渡すと工作機械や測定器があるではないですか。これ幸いとオリジナル回路の無線機を作り、無線雑誌に投稿したら即採用！。この後の経緯はよく覚えていないのですが、しばらくしてハムジャーナルという季刊誌で「HF機(短波の無線機)100%ガイド」という連載を持つようになりました。会社員そして時々雑誌ライターという生活の始まりです。

## 技術部員として

電通大卒業生が即戦力として重宝されるのは皆さん御存じの事と思います。防人勤務の間にもAMステレオ放送実験場の常駐員をやりまして、本社へ戻ってからはスタジオの設計から始まってラジオの世界のあらゆる部分をいじっています。一つ特筆するとしたらモバイルスタジオ(写真)の開発でしようか。NTTドコモさん、NECさんと組んで3G携帯の同期64k回線を使った高音質中継装置を作ったのです。この作業の途中で当時社会問題になりかけていたある3G回線網の問題を解決しましたし、この中継装置はほぼ全部のラジオ局に導入していただきました。レポーターが絶叫しても聞き取れる音声回路が自慢で、ここは自分で回路図面を引いています。

音響ミキサーとしてもいろいろ仕事をしてい



モバイルスタジオ

ます。バンド2組が続けて演奏する音楽番組を毎週一人で担当した時はさすがにきつかったのですが、良い経験になりました。またテレビを含めデジタル放送の規格制定にも関わっています。規格書TR-B24に最初に追加された外字の中に「はしご高」がありますが、もちろんこれは偶然です。技術時代の話はインタビュの形である本に収められていて、私のページはサンプルとして今でもネットで公開されていますので「高木誠利 飛鳥新社」で検索してみてください。

## 制作部への異動

会社がビルを建て、完工後10日ほどで新社屋を稼働させました。スタジオ内部以外の放送設備はすべて私の担当です。機械が新しくなるので設計担当は暇になると思われたのか、電力設備を地下2階から屋上に移動させて建設費を増やしたのがまずかったのか、原因は不明ですが、1年後に突然、制作部への異動となりました。

ラジオ局では技術系社員が研修のような感じで1〜2年間制作現場に出ることはよくあります。私もそうかなと思っていたのですが結果的には片道切符となりました。気が付けば技術職20年、制作現場20年です。

現在は生放送1つと4つの録音番組を担当しています。生はニュースワイド。CUE振り(全体進行管理)ディレクター(D)です。外部スタッフを使う場合も多いのですが社員Dだとギリギリまで自分の権限で進行を変えられるというメリットがあります。録音番組は音楽番組から雑談ものまで幅広く、プロデューサーとし

て「置物」になっていければ良いものから、自分で編集をしているものまであります。

## 今の立ち位置について

60歳を超えて嘱託社員に変わった時点で完全に文系扱いに変わりました。でもいまだに技術職としての立ち位置もあります。たとえばラジオ各局の技術職が集まる会には普通に参加していますし、テレビ技術の皆さんとも飲む機会があります。営業は局が違えば敵、制作は局が違うと他人ですが、技術は結構仲良しなのでそれに甘えているという感じですか。放送の技術職で電通大ブランドは強力で、後輩がどこかに入社すると話が流れてきます。私は今、早稲田と慶應ばかりの世界にいますが・・・。

アマチュア無線、電子工学関係の雑誌記事は制作に移ってからも書き続けました。単行本になつたものもあり、共著や上下巻を全部数に入れると計19冊、最新刊は日本アマチュア無線機名鑑I、II、III(CQ出版社)です。

## 後輩へのアドバイス

いろんなことに手を出して結局何も極めていない私ですが、一つ身を助けたものがあります。それは文章力です。技術時代には仕様が明確になることでトラブルを減らしコストを下げることでできましたし、制作では宗教番組を担当した際に大いに役立っています。苦勞しているとしたら放送用の口語と雑誌用の文語の使い分け。放送原稿はトーク用とニュース用でも違うのですが、とにかく文章力を磨いて損は無い！私はずう感じています。

Unique &  
Exciting

キャリア編

杉崎 智介

2019年博士後期課程基盤理工学専攻入学  
映画監督

# 電通大研究室から 世界の映画祭へ挑戦!!

子供の頃から遺跡や古建築が好きで、埋蔵金探しも随分して来ました。生まれは厳しい環境で、父は家に生活費を入れず、母は酒浸り。小学校時代から「どうやってお金を作るか」が私の課題でした。古銭を旧家や果樹園でしばしば発見し、郷土新聞に「埋蔵金少年」と取り上げられたのはこの環境からでした。古銭は高く売れました。当時はコインブームでしたから。中学校時代は雀荘でアルバイトをしていました。深夜12時閉店後、店内清掃をします。二人分の仕事量を一人でやり日給が5千円でした。公務員の初任給が6万円少しの時代ですから、月に12万円、現在に換算すると40万円程。これは全て家に入れました。その内店主から賄いを頼まれました。当時は店が混みだす夜8時には出前は終わってしまうため店主は困っていたのです。「材料持ち込みで売上は全部取り」という条件で、焼うどんを毎日30食提供することになりました。30食なら絶対に売り切れるからです。1食千円で、1日3万円、月に60万円です。今の180万円程ですがこれは家には内緒。この売上や古銭を売ったお金で高校時代から株式投資を始めました。興味のある会社の株を買っていき、幾つかの上場企業の大株主となり人脈も広がり、気付くと実業家になっていました。ところで、小学校時代の私の部屋は階段下の物入れ、日常の抛り所はラジオ。小学一年生の頃、毎日が辛くて「ぼくをラジオの中に連

れて行って」と何度か番組にハガキを出しました。涙で擦れた鉛筆文字は読まれることはなかったのですが、40年後その話がたまたまラジオ局での席で出て、それがきっかけでラジオの世界に。一方、学問好きを我慢して来たので、寝る時間を削り仕事の隙間を探し、大学の建築学科に入学。その後も時間を作り、数学科、物理学科を卒業。物理学科の卒論は「ホログラフィック原理」でした。内容は「この世界が仮想空間であることを数学で証明する」というもので、物理をもっと学びたくて電通大に進学しました。当初は物理系の渡辺信一先生の研究室に入る予定でしたが、先生の定年に掛かり、瀧真清先生の研究室所属となったのです。それが生物物理学との出会いです。数学科物理畑の人間が生物化学系研究室に配属され、それも少しでも物理



ラジオパーソナリティーの放送中。20年来の仕事



映画『精霊』ポスター



「作品賞」受賞



「主演女優賞」受賞

にとどまりたい欲求から不慣れなMD法（分子動力学計算）を自分でソフトを買って進めることの無謀さを感じていただけの方も、電通大学生さんやOB・OGの方ならいらっしやるかもしれません（笑）。研究は創業に関するものですが、3年間にわたって連日、東大のスパコンSHIROKANEを動かしている間に興味を持ったのが「プラズマ生命体」です。2007年にドイツのマックス・プランク宇宙物理学研究所による発見は周知です。さて、当初目的としていた創業の論文は仕上げたものの、私の興味はどうにもプラズマ生命体から離れず、日を追うごとに深まるばかり。しかし、それを査読論文にするわけにもいかず、脚本を起こし映画にしたのが2025年に公開された映画『精

霊』です。海外版は『Spirits』という題名で、国内上映されたものとは内容が少し異なりますが、ありがたいことにこちらが現在世界で評判をいただき、アメリカ、カナダ、フランス、スペインなどの国際映画祭でノミネートされ、アメリカの映画祭では「作品賞」、「主演女優賞」もいただきました。因みに映画『Spirits』の監督は私ですが、主演は電通大で研究生として籍を置き一緒に学んだReeSyA（長本梨沙）という女優です。少々拡大解釈すれば、電通大研究室から「プラズマ生命体」で世界を獲ったと。脚本家ならではの少々大げさな物言いを見せていただきました（汗）。話が長くなりましたがこの映画を一言で説明しますと、「物語や伝説、伝承に登場する精霊とはプラズマ生命体だっ

た」という御伽噺です。アメリカを始め海外で映画が上映され逆輸入という形で日本の劇場に登場する機会があれば、皆さんにぜひご覧いただきたいと切に願っております。最後にありますが一言。学問の道は険しく厳しく、研究を続けることは容易なことではありません。それを人生にするなら尚更。自分の研究が世の技術や人の暮らしに役立つならそんなHappyなことはありませんが、それは極一握りでしょう。私は数学や理科は好きだから続けられると思っっています。必ずしも論文が全てでもないはず。あまり思いつめると病みますから自由な発想で世界を見つめるのもありかもしれませんよ。歩く道端に何かが転がっていることも…。

同窓会賞受賞者から在學生に 贈る言葉

よく遊び、よく学び、  
挑戦は楽しんで！

2024年同窓会賞受賞者

井口 聖氏

電通大は調布駅から非常に近く、便利な場所にあります。受験で東京に初めて来て、新宿駅に降り立ち、駅と周辺のビル群を見上げた光景、そしてその巨大さに圧倒された記憶は未だに忘れられません。そして調布に向かう車窓から見た田畑もまた印象的でした。調布は新宿にアークセスしやすく、その交通の利便性の良さに加え、自然環境の豊かさ、そして駅周辺の商業施設の充実もあり、地方から来た私にはとても住み心地がよい街でした。

学部4年間の思い出は、サークル、バイト、冬はスキー、毎夜の友人らとの親睦と、充実した日々を過ごしました。授業で印象に残ったのはやはり実験でした。実験計画書を担当教官が承認した後に開始できるのですが、授業は13時開始、しかしこの確認があるために実験は概ね

17時開始となりました。終電ぎりぎりになる学生も多数いたと思います。計画書と報告書の作成でほぼ1週間が埋め尽くされるこの実験授業は、2年間も続きました。私の研究人生における礎の1つを築かせてもらったと思います。

博士前期と後期では電通大からも通える国立天文台で学び、三鷹、宇宙科学研究所がある淵野辺、そして長野県の白田宇宙空間観測所で、どっぷりと研究生活を送りました。たくさん論文や書物の読破、機器開発と天文観測と、気がついたら遊びから学びへとシフトしていました。英語は苦勞しました。特にリスニング、そして議論が全くできなかったです。そんな私がよく、日米欧で共同建設したアルマ望遠鏡の日本側のプロマネを担当させていただくことになったと思います。英語ができない皆さん、ご安心ください。なんとかなります!! その分、なによりも論理構成力を磨かれることをお勧めします。

さまざまな経験をさせていただき、今は月面に電波望遠鏡を建設する計画を推進しております。宇宙暗黒時代の中性水素を観測することで標準宇宙論の検証に挑戦しています。通る道は必ず違えど、新たな科学目標に挑戦する気持ちを持ち続けられることに幸せを感じながら、若手研究者の皆さんと研鑽できる日々を楽しんでいます。月に巨大な物資を輸送することはできない中、どのような工夫を凝らすのか? 課題は常に物理学を基本として算数で説明でき、大概これで要求値を満たせると思っております。

基礎は何歳になっても学べますし、学ぶべきものだと思います。じっくりと焦らず、見聞を広め、充実したと思える4年間を過ごされることを願っております。博士課程では専門分野のみならず少し広めでどっぷりと深みにはまり、邁進されるとよいでしょう。海に向こうのまだ相見えない将来の友人らは想像以上に努力しています。彼らのその厳しさは、驚くことに我々の大学受験以上だと思っております。



## 【受賞内容】

東アジア、北米、欧州の共同プロジェクトであるアルマ望遠鏡計画に東アジアのプロジェクトマネージャーとして参画し、アルマ望遠鏡の建設の完遂、その後の定常運用への移行へと国際的に大きく貢献した。

## 【略歴】

1995年 国立電気通信大学電気通信学部電子工学科卒業  
2000年 国立電気通信大学大学院電気通信学研究所博士後期課程電子工学専攻修了  
2000年 国立天文台中核的研究機関研究員  
2001年 国立天文台助手  
2007年 自然科学研究機構国立天文台准教授及び総合研究大学院大学准教授  
2012年 自然科学研究機構国立天文台教授及び総合研究大学院大学教授  
現在に至る

# 令和7年度 目黒会賞受賞者一覧 (五十音順)

## 目黒会賞とは

目黒会賞は各年度の学域卒業生および大学院修士生の内、成績優秀な者として、学内選考委員会によって選考され、電気通信大学長から推薦された方々を、一般社団法人目黒会が表彰するものです。

## 情報理工学域

学域合計 38名

### I類

石原 阜太郎  
上川 雅弘  
北風 陵汰  
白井 奏牙  
杉本 雛梨  
杉本 隆平  
田 梓岐  
成田 遥  
馬場 雄大  
原 愛貴  
代市 三志郎  
米田 岳斗

### II類

石田 蒼依  
上野 輝哉  
加藤 涼  
門脇 瑠友  
鐘ヶ江 僚太  
岸川 駿平  
後藤 樹  
小林 裕幸  
照沼 志帆  
戸北 宗一郎  
松本 拓真  
三浦 太平  
森脇 拓哉  
渡邊 一太  
渡邊 穂高

### III類

大出 蒼空  
荻野 恭一  
奥山 晃希  
加藤 巧武  
菅 翔平  
寺田 陽貴  
内藤 守 (総代)  
光田 優太郎  
八木 俊洋  
吉田 智理

### 先端工学基礎課程 (K 課程)

山田 晃嗣

## 情報理工学研究科

大学院合計 32名

### 情報学専攻 (J 専攻)

石橋 宙希  
大井 邦彦  
迫 琉奈  
佐野 遵平  
信太 浩睦  
祖父江 迪瑠  
田邊 光  
中溝 雄斗

### 機械知能システム学専攻 (M 専攻)

宇梶 尚弥  
河上 響  
草間 健吾  
中村 裕哉 (総代)  
藤井 樹  
村上 和也

### 基盤理工学専攻 (S 専攻)

伊藤 悠哉  
上田 朔也  
小野田 元喜  
栗原 蒼志  
小林 大朔  
佐藤 千寛  
谷屋 勤治  
成田 理亮

### 情報・ネットワーク工学専攻 (I 専攻)

足羽 瞳子  
有吉 良太  
神崎 涼司  
佐藤 光太  
三納 侑樹  
高木 志門  
隼田 駿  
日高 俊太郎  
森山 陽介  
湯澤 昂平

## 御退任記念祝賀会



令和8年3月19日(木)に「令和7年度電気通信大学御退任記念祝賀会」が調布クレスタンホテルにて開催されました。

本年は、6名の教職員の方が定年退任を迎えられました。祝賀会は、学術院長・情報理工学研究科長の仲谷教授の司会で進められ、ご出席の教職員の方が紹介されました。田野学長のご挨拶のあと、村松理事のご挨拶とご発声で乾杯が行われました。ご歓談のあと、ご退任される教職員の方から研究や学生の思い出、電通大に良くする話、留学生に対する熱い思いなど、感慨深いご挨拶をいただきました。その後、西岡理事から祝辞と記念品の贈呈があり、ご退任される教職員のゆかりの方々からの花束贈呈がありました。

続いて、目黒会の森会長から感謝の言葉とともに記念品が贈られました。引き続きサプライズ企画として、教員としては定年の節目である西岡理事と学長を退任される田野学長に大学側からは記念品と花束が、目黒会からは記念品が贈られました。最後に、阪口学術院長・情報理工学域長から閉会の辞が述べられ、出席者全員で集合写真を撮影し、祝賀会は盛況のうちに終了しました。

## 田野学長のご祝辞(要約)

長い間電通大の教員として電通大のために活躍して頂きましてありがとうございます。皆さんの活躍のおかげで電通大が良くなってきました。長い間ご苦勞様でした。例年この場では長いですよという話と短いですよという話の2つをしています。今、皆さんは65歳だと思えます。余命は長いです。新しいことに挑戦しましょう。そして健康年齢は短いです。焦って楽しみましょう。

例年は「活躍してくださった方がいなくなって寂しくなります」「活躍していきましよう」という気持ちで送り出したと思います。皆さん長い間本当にありがとうございます。

## 村松理事のご祝辞(要約)

4人の先生方とはいろいろところでお世話になり、誠にありがとうございます。特に米田先生とはお酒を飲みながら電通大やレーザー研の将来など、いろいろなことを教えて頂きました。

本日開催された学長トークの中で、養老孟司氏のよう

に退職すると空が青く見えるという話をされてきました。米田先生にはまだ青空は見えないことを存じあげております。また、調べたところ田野学長も4月1日は学長顧問としての初出勤日なので青い空は見られないようです。これから電通大を去っていく教職員の方たちのご多幸とご活躍をお祈りして挨拶に代えたいと思います。

## 西岡理事退任のご挨拶(後日投稿)

小学校入学前から電子工作を覚え、九歳の誕生日に半田ごてを買ってもらって、半田付けとドリルやシャーシパンチに明け暮れる毎日を送っていました。オーディオアンプ、送信機やアンテナ、等々、たくさん機器を作って楽しく暮らしていました。

そして、通信技術者を目指し、二十歳で本学の通信工学科の三年次に編入した時から第二の人生が始まります。当時編入可能な大学は東大、千葉大、農工大、電通大など、限られていました。電通大は十五分間の面接だけで入学を許してくれた優しい大学と思いきや、三年次一年間で八十単位を取る必要がありました。ただただ試験を受けたのを思い出しました。研究室に入ってからには休みのない生活でしたが、二十四歳で助手に採用され「研究して遊んでいけばいい。良いデータが出たときにかっこいい論文を書きなさい。」と幸せな日々を送っていました。

五十歳を過ぎた頃、研究センターから基盤理工学専攻に移りました。直ぐに専攻長に選出され、このあたりから、学内の先生方とお酒のお付き合いが増え、五十代終わりの頃は、学域長に選出され管理業務が多くなりました。一年は直ぐに経過する感覚でしたが、ここからは一年が三年分くらいに感じました。未経験の仕事が増える時間帯の経つのが遅く感じられるそうです。年齢が上がるに連れて時間の感覚はどんどん長くなり、最後の二年は二十年位に感じました。新しい仕事に出会う機会が増え、考え事も多かったですように思います。

いよいよ、第四の人生を迎えます。長い修学期間が終わり、やっと卒業です。十代の頃のように趣味に没頭し、一年が一瞬で終わる日々に戻る事を願っています。みなさま、四十五年間にわたるお付き合いありがとうございます。お礼申し上げます。

# 退任のご挨拶

令和7年度ご退任者

小島 年春      垂井 淳  
三瓶 厳一      安井 正憲  
米田 仁紀      笠原ゆう子

## 30年余りを振り返って



基盤理工学専攻 教授  
三瓶 厳一

平成6年に電気通信大学に着任して以来、早いもので30年余りの歳月が流れました。振り返れば長い時間ではありますが、日々さまざまなことに向き合っているうちに、あっという間に過ぎ去ってしまったようにも感じております。

分子生物学を専門とする私にとって、電通大の先生方の研究は難解で、理解が追いつかないことも多々ありましたが、そのおかげで幅広い分野に触れ、学びを深める貴重な機会をいただきました。

私の居室は東6号館にあり、西側の眺望が開けています。晴れた日には、丹沢山系、富士山、大菩薩峠、秩父の峰々、さらには群馬県の山々まで一望でき、朝に登学してまずその景色を眺めて心を整え、調布飛行場から飛び立つセスナを見て爽快な気持ちになってから仕事を始めるのが日課となりました。4月からこれらが日常の風景でなくなることを思うと、寂しさを覚えます。30年以上の間ここで過ごしてきたことを思い返すと、さまざまな出来事が胸に去来し、寂寥の思いが募る今日この頃です。

着任当初の電通大は、今よりも緑が豊かであったように記憶しています。校内では狸やア

オダイシヨウを見かけることもあり、楢の木にはカブトムシやクワガタが集まり、1本のアオキにタマムシが乱舞する光景に驚かされたこともありました。時代とともに構内の建物が増え、木々が伐採され、こうした生き物の姿が少しずつ見られなくなっていくことは、生物学者として寂しい限りです。しかし、大学の発展のためには避けられない変化であったのでしょう。大学を取り巻く環境が厳しさを増す中ではあります。電通大のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

最後になりましたが、貴重な研究と教育の場を与えてくださった電気通信大学、そして長年にわたりお世話になりました多くの教職員の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、ともに研究に励んでくれた多くの学生の皆さんにも深く感謝いたします。長い間、本当にありがとうございました。

## 私の電通大生活



基盤理工学専攻 准教授  
安井 正憲

「安井君、電通大って知ってるかあ」阪大時代の指導教授によるこの一言から、私の電通大生活が始まりました。

1987年10月に赴任した当時、東地区キャンパスは再開発前でした。D棟やE棟の玄関前（メンスト側）には大きな樹木が茂り、緑豊かな印象を受けたことを覚えています。私の採用と同時に、材料科学科（S科）と物理工学科（P科）が統合され、電子物性工学科（F科）が誕生しました。ただ、在学生はまだ旧学科に所属していたため、私が初めて受け持った授業は2年次の「材料科学実験Ⅰ」でした。新学科向けの学生実験のテーマについて、他の先生方とあれこれ議論したことは懐かしい思い出です。この時作り上げたカリキュラムは、現在のⅢ類化学生命工学プログラムにも引き継がれています。

1995年度からは、前年度に開設された機器分析センターの助教に就任しました。研究室や担当する学生実験は変わりませんでした。翌年から大学院の講義を受け持つことになり、その準備には大変苦労しました。その後、学部の物理化学関連の講義担当も順調に（？）増えていき、ある時、上司から「電気回路の講義もできるでしょ？」と声をかけられました。その一言で、化学系の教員でありながら電気回路学を教えていた時期もありました。

研究面では、X線結晶構造解析を用いて、主に有機結晶の構造と物性の相関を追究してきました。特に電子密度分布解析を通して、分子内・分子間の相互作用に関する詳細な議論を専門としていました。また、これとは別に、色素分子とタンパク質の相互作用による円二色性スペクトルの発現に興味を持ち、その詳細をX線結晶構造解析で解明する研究にも取り組んできました。長年、思うような結果が出ない時期が続きましたが、最近になってようやく、いくつつかの例

で構造解析まで進めることができました。粘り強く取り組んでくれた歴代の学生たちの努力には、感謝の念に堪えません。

こうしてマイペースに教育・研究を続けてこられたのも、学科・専攻の先生方のご理解とご協力があったからこそと、深く感謝しております。今後の電通大の益々の発展を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

## 退職にあたって



国際教育センター 教授

笠原(竹田)ゆう子

私が本学に着任したのは1996年4月、本学に留学生センターが設置されてから1年後のことです。留学生センターが設置される以前は、本学配置の大使館推薦国費研究留学生は旧東工大で6か月間の予備教育を受けていました。私は非常勤講師として旧東工大での予備教育で日本語を教えていたので、本学の留学生との関わりは30年を優に超えるかと思えます。

着任以来29年の間には、留学生センターが国際交流推進センターになり、さらに国際交流センターを経て現在の国際教育センターへと名称が変わりました。留学生30万人計画をはじめとする国の施策、大学本体の学科再編、法人化、改

組など、センターを取り巻く環境はその時々で変化したものの、「留学生（受入派遣）の留学目的の達成を助けるために必要な教育及び指導、助言を行う」という留学生センター設置当初からのミッションが変わることはありません。私が本学に勤務して幸せだったのは、そのミッションを共有し、共に汗を流す先生方が常に周りにいてくださったことだと思います。

現在の国際教育センターの先生方はもちろん、これまでのセンターでお世話になった先生方には感謝に堪えません。特に、小山直人先生、奥山直樹先生、池田裕先生には着任当初から本当に多くのご指導をいただきました。そして、これまで出会った留学生達のおかげで豊かな経験と学びを得ることのできた日々でした。歴代のセンター長をはじめとした、留学生教育やセンターに関わってくださった学科・類・専攻の先生方、日本語非常勤講師の先生方、センター事務の方々、現国際課をはじめとした職員の皆様、CIFAやMIFO等地域で留学生を見守ってくださった方々、ありがとうございます。充実した29年をくださった皆様は心より感謝申し上げます。電気通信大学と同窓会のこれからの発展を心より祈念いたします。

# 目黒会グループ会のご案内

電気通信大学同窓生の多くの皆様がグループの活動を通じて同窓生交流を深める活動をされています。目黒会は「目黒会グループ会」という連携窓口組織を設け、グループとの情報交流を進めています。グループ会に登録されれば、活動補助金の交付とあわせて、同窓会誌や目黒会ホームページでグループ活動が紹介されますので、是非ともグループ会への登録をお願い申し上げます。

グループ会のご案内

楽しむ/予定

楽しむ/報告



## 目黒会グループ会登録一覧（2026年3月31日現在。カテゴリー別登録順。現96グループ）

NO	グループ名	メンバー数	代表者
<b>(研究室同窓会)</b>			
1	古荘研究室OB・OG会	18	仁科 雅弘
2	IEゼミ*1	552	志賀 智一
3	ヒトヨシ会（坂本和義研究室同窓会）	252	水戸 和幸
4	長森研OB会	25	金子 文雄
5	尾内・林研究室 OBOG 会	50	簡石 賢央
6	小島研OB・OG会	44	小島 年春
7	萩野研OB・OG会	200	高木 国男
8	田中基康研究室	45	田中 基康
9	石川・結城研究室OB会	325	結城 宏信
10	江木研究室同窓会	31	江木 啓訓
11	明・佐藤研究室OBOG会	500	下条 誠
12	水戸研究室同窓会	103	水戸 和幸
13	奥野研究室同窓会	12	極權 紘希
14	小池研同窓会	99	鈴木 崇弘
15	柏原昭博研究室同窓会	20	後藤 充裕
16	角田・赤池研究室同窓会	230	石原佐和子
17	山本佳世子研究室同窓会	23	金井 治樹
18	三木・來住研OB・OG会	8	松浦 基晴
19	山藤研同窓会	9	三宅 基夫
20	植野研究室同窓会	60	宇都 雅輝
21	宇都研究室同窓会	22	宇都 雅輝
22	通機会（機械系研究室卒業生）	500～1000	小柳 洋
23	梶本研究室同窓会	20	梶本 裕之
24	美濃島・浅原・加藤研究室同窓会	59	加藤 峰士
<b>(企業同窓会)</b>			
1	電気通信大学企業家懇話会（略称：EATEC（イーテック））	57	藤崎 正範
2	松下調布会関西	42	吉田 純
3	JR東日本目黒会	113	浦壁 俊光
4	シャープ目黒会	20	宮澤 友和
5	IHI電通大OB・OG会	81	原 裕樹
6	AT-UEC会（NTT-AT社内OB会）	98	高橋 真之
7	ドコモ目黒会	347	中瀬 直晃
8	3M電通大OB & OG会	19	大橋 学
<b>(サークル同窓会)</b>			
1	素光会（剣道部同窓会）	288	木村 裕之
2	自動車部OB会	80	中川 悟
3	ラグビー部OB会	200	小宮 幹夫
4	ワンダーフォーゲル部OB会	170	小柳 洋
5	ヴェルテン会（管弦楽団OB S33年代）	22	兒玉 敦行
6	陸上競技部後援会	121	小野寺 順
7	英会話部OB・OG会	33	遠藤 直樹
8	硬式野球部OB会	164	西田 知弘
9	学友会執行委員会08,09 OB会	60	島崎 俊介
10	とり松友の会（管弦楽団OB S57卒）	22	竹田 智彦
11	ヨット部同窓会（黒艇会）	180	木下 敬裕
12	東洋哲学研究会同窓会	30	鯨井 源一
13	短大バスケットボール部OB会	50	羽角 和正
14	フェリシア会（競技ダンス研究部OB・OG会）	355	川瀬 克行
15	柔道部OBOG会	20	瀧 佑介
16	軟式野球サークルたまあ〜ずOB会	100	石橋 融
17	体育会バレーボール部 OB・OG会	100	大和いずる
18	海洋部OBとその仲間たち	20	麻田 直人

NO	グループ名	メンバー数	代表者
19	親岳会（短大山岳部）	29	坂本 薫
20	グリークラブOB会	484	宮本 美則
21	ゴルフ部OB・OG会	80	赤澤 隆
22	バスケットボール部とげぬき会	45	水町 佳宏
23	WEO卒業生楽団	27	山崎 智樹
<b>(同期会・クラス会)</b>			
1	S40Sクラス会	33	羽生 利通
2	RB38年入学クラス会	37	津田 宏
3	六八会（1968年短大入学同期会）	60	勝本 研一
4	S50Dクラス会	31	増田 悦夫
5	S44T入学クラス会	29	渡邊 隆一
6	UEC御宿友の会（S35卒同期会）	20	中村 善明
7	S1966会（S41年入学S科クラス会）	23	塩澤 和夫
8	S52卒仲間の同期会	13	小林 俊英
9	S38Eクラス会	26	木村 光照
10	電通大40Tクラス会	31	三木 哲也
11	60Tクラス会	42	原 裕樹
12	52D同期会	13	渡辺 一夫
13	48R同窓会	40	菅野 政孝
14	P50卒クラス会	32	角田 吉規
15	電通大36Bクラス会	26	岡崎 宏
16	ハムの会（S37通信機械工学科入学同期会）	29	久野 輝夫
17	短大70年代友人の会	40	山下 久雄
18	31B（通信経営科）クラス会	11	小林 範久
19	S31通別クラス会	15	佐藤 謙二
20	60N同窓会	25	中里 明子
21	通信工学科68年同期会	34	中村 達
22	S41入学/S45卒業Eクラス会	35	早川 和彦
23	53C同期会	61	関 和郎
24	64E入学同窓会（64年入学電子工学科の会）	23	小沼 博
25	UEC73R同窓会	33	大家 万明
26	73年卒業M科OB会	20	中山 良一
27	M1995&1996入学クラス会	7	中田祐美恵
28	1978S科入学同期会	22	佐々木浩幸
29	73Eクラス会	8	宝槻 稔
30	83Bクラス会	21	谷口慎一郎
31	S46経営工学同期会	29	小谷野典夫

<b>(地域・趣味・その他)</b>			
1	電気通信大学技術士会	49	遠峰 徹
2	UEC WOMAN 女子会	200	岩本 茂子
3	小田急急線（OER）気楽な会	56	春日 正好
4	電通大無線の会	115	高橋 真之
5	おもちゃの病院	15	山森 信生
6	電気通信大学 沖縄県人会	21	島崎 俊介
7	子ども作文研究会*2	12	石川 良教
8	ひよっこ技術者交流会	10	森 健太
9	Mexico-UEC	25	中野まり子
10	双乃会（そうだいかい。特許・知的財産関連の従事者の集まり）	398	志水 英貴

\*1 平島正喜研究室、長谷川伸研究室、林泉研究室、御子柴茂生研究室、志賀智一研究室の教員及び卒業生

\*2 キャリア教育の現・元特任講師による子ども国語教育研究会作文指導教室

## 美濃島・浅原・加藤研究室同窓会

美濃島・浅原・加藤研究室は、2013年に先進理工学専攻にて美濃島研究室として創設され、基盤理工学専攻への改組、浅原研・加藤研の誕生を経て、現在に至ります。現在の所属学生は20名程度と大所帯で、2005年にノーベル賞を受賞した光周波数コム（光コム）光源を中心に様々な研究を行っています。光源の開発はもちろん、高精度ガス分光や高精度長距離測定、瞬時3次元イメージングへの応用など、光コムの持つ圧倒的な制御性、高精度性を最大限に活かした様々な研究を精力的に行っております。当研究室における卒業生と在学生の最も重要な交流の場として、年に1回、本学の大学祭である「調布祭」の期間に合わせて、大学内で立食形式のOBOG会を開催しております。

このOBOG会には、毎年多くの卒業生が足を運んでくださり、世代を超えた貴重な情報交換と親睦の場として定着しています。

本研究室のOBOG会の特色の一つとして、大学にて開催することにより、卒業生が現在の実験室を見学できる点があります。最新の実験設備や現在の研究内容を見学することで、昔と変わらない部分に懐かしさを感じつつ、同時に研究室の発展ぶりに驚かれる卒業生も少なくありません。

このOBOG会は在学生にとっても非常に有益な機会となっております。これから就職活動

を控えている学生や将来のキャリアについて考えている学生たちは、社会の第一線で活躍されている先輩方から直接お話を伺うことができそうです。光学・通信業界の動向や企業での具体的な働き方、就職活動に向けた実践的なアドバイスなど、大学内や一般的な就活イベントでは得られない「生の声」を聞くことができる場として大いに機能しています。

写真1はOBOG会の様子です。中央の机では、在学生が準備した飲食物が並びます。様々な場所で、教員・卒業生・在学生の交流が行われています。

写真2はOBOG会の集合写真です。2025年度は計41名の参加でした。



写真1

今後、この調布祭におけるOBOG会を大切な伝統として継続し、卒業生・在学生・教員の全員において有意義な交流が図れる場を提供していきたいと考えております。卒業生の皆様におかれましては、今後是非ご参加いただければ幸いです。

美濃島・浅原・加藤研究室同窓会代表  
加藤 峰士（2006年 量子物質工学科入学）



写真2

## 73Eクラス会

73Eのクラス会を2024年、2025年と2年続けて開催しましたが、実は2024年に開催したクラス会は卒業（1977年）以来という、実に卒業後47年ぶりという快挙（？）でした。

我々73Eは卒業後クラス会というものを行った事がなく半世紀近く経過したのですが、卒業後企業などに就職し現役の間はそういう催しが無かったという事になります。

振り返ってみますと、企業をリタイアしてようやく周囲の事に気を配る時間がとれるようになったという感じがします。そして歳をとりますと同窓の集まりとか、そういうしがらみのない集いというのが嬉しくなってくるものです。

クラス会のきっかけは初めに米国在住の比田井君からお声掛けがあり、聞くと同窓会誌（調布ネットワーク）で私の名前を見つけて、目黒会からつなげていただいたという事でした。2024年は同研究室から同じ会社に入社した藤澤君と学生時の時からスキー仲間だった田中君などにも声を掛け、また目黒会ホームページの同窓会ラウンジに投稿したり、目黒会から同期の会員に連絡を取っていただくなど、ここでもお世話になって磯崎君、金子君達ともつながることができ、47年ぶりのリユニオンで6名の参加を見る事ができました。

その後、勢いがついて？2025年にも比

田井君の帰省に合わせて2度目のクラス会を開くに至ります。今度は2回目ですから、なにか皆さんに共通のイベントをという主旨で、母校のUECコミュニケーションミュージアム見学を企画しました。UECコミュニケーションミュージアムではレトロな通信機器に懐かしさを覚えながら、皆さんあれこれと記憶を掘り起こしながら楽しみました。ここには私の居た会社で使われていた機器なども寄贈されていて、親近感がありました。UECコミュニケーションミュージアム見学の後、担当の大家理事（73Rで同期）を表敬訪問しました。

2度目の2025年クラス会では、こうして母校のキャンパスも見学することができました



2024年のクラス会

し、新たに加藤君、藤田君、二川君の参加を仰ぐことができ、8名の参加となりました。まだまだ少数でのクラス会です。この記事を見てくれた方は是非コンタクトしてください。今後も機会をとらえて皆さんでの集まりをしていこうと考えています。

同じように長年クラス会とか開催してないぞという方々、久しぶりに集まってみては如何ですか？目黒会に訊ねてみるのも助けになるかもしれません。

73Eクラス会代表  
宝槻 稔（1973年電子工学科入学）



2025年のクラス会

グループ会報告 / 同期会・クラス会

## UEC 73 R 同窓会

1973年度R科入学の同期会は、毎年活動をするのを申し合わせて、会を継続しています。2025年度の全体懇親会は、2026年1月25日に調布の居酒屋えん屋で懇親会を開きました。遠くは長野県からの参加も含めた9名が集まり、新年会を兼ねた同期会を楽しみました。年度の途中から東京近郊在住のメンバーの間で、



2026年1月 新年会 調布にて



2025年9月 第一回73R誕生日会（餃子の会）

某餃子店の誕生日会餃子プレゼントの仕掛けを活用して、誕生日会をやるとういう事になり、9月から順次メンバーが集まり継続しています。メンバーの年齢の数だけ、餃子がサービスされるので、お財布にも優しく懇親会を楽しんでいます。順次メンバーが増えています。3月の誕生日会では7名が集まりました。10回来ると、100個の餃子がサービスという事で、計算上は毎月集まりが楽しめそうです。また、UECコミュニケーションミュージアムの学



UECコミュニケーションミュージアム別館オープニングセレモニー

術調査員として協力しているメンバーも複数居て、3月24日に行われたミュージアム別館のオープニングセレモニーにも参加しました。2026年度からは3月まで理事を務めた大家学長特別補佐が、ミュージアム館長として就任し、さらにミュージアムの活性化を図る予定です。皆さん、ご協力頂ければ嬉しいです。

UEC 73 R 同窓会代表 大家万明

(1973年電波通信学科入学)



# お役立ち情報

会員活動紹介

暮らしやビジネスの相談ごとに役立つ同窓生をご紹介します

## 技術士（経営工学部門）の紹介

齋藤 拓也

2008年 量子物質工学科入学

資格名：技術士（経営工学部門）

認定機関名：公益社団法人 日本技術士会

取得日：令和7年4月17日

資格の概要：生産管理、品質管理、物流、情報システム、業務プロセス改善などを対象とし、企業活動の効率化や高度化に関する専門的な知識と応用能力を認定する国家資格です。一次試験と二次試験で構成され、二次試験合格後に登録することで、合格した部門名(全21部門)を用いて「技術士（〇〇部門）」という肩書きを表示することができます。

### ■ 資格取得のきっかけ

契機はコロナ禍の中の2020年でした。サプライチェーンの混乱に直面し、従来の紙やExcel主体の管理では迅速な意思決定が困難であると痛感しました。私はこの危機を打破すべく、IoTを活用した生産工程の可視化やデータ駆動型の工程改善に挑む中で、文部科学省が定義する「技術士に求められる資質能力（コンピテンシー）」を知りました。この定義の中には「35歳前後の技術者が、豊かな創造性を持って複合的な問題を明確にして解決できる技術者（技術士）として活躍することが期待される。」という記載があり、当時その年齢に差し掛かっていた私にとって、自身のキャリアを体系化し、技術者としての指針を再構築する絶好の目標となりました。

### ■ 資格取得で苦労した点

特に苦労したのは二次試験の論文対策です。実務では自部門の最適化に偏りがちですが、試験では全体最適、安全・倫理、説明責任といった多角的な視点が必要不可欠です。自身のプロジェクトを「課題・原因・対策・波及効果」の枠組みで構造化し、論理の飛躍を排除する訓練を重ねました。また、仕事と家庭の両立も大きな課題でした。平日の通勤時間で論文構成を練り、週末に答案を手書きする練習を繰り返し行いました。数日後に客観的な視点で見直し、「結論の明快さ」や「具体性」を自ら厳しく添削しました。口頭試験に向けては、社内の技術士会による模擬面接で指摘を受け、対

話を通じて技術士としてのコンピテンシー、技術的妥当性の説明能力を磨き上げました。

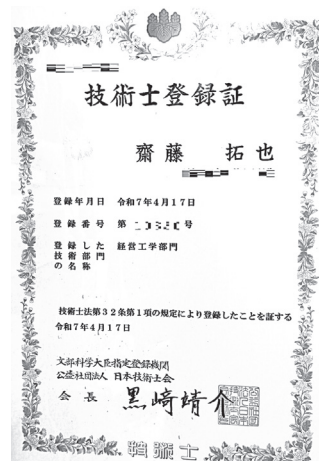
### ■ 資格取得後の変化とメリット

取得後は、社内外での信頼が高まりました。責任ある役割を担うようになってきました。

また、日本技術士会での異業種交流を通じ、AIやIT分野の最新事例に触れることで、視野が大きく広がりました。さらに、自身の経験が国家資格によって裏付けられたことで、ステークホルダーに対する提案の説得力が飛躍的に向上したと感じています。

### ■ 資格取得を目指す方へのアドバイス

まずは自身の業務経験を棚卸しし、成功・失敗の両面から学びを言語化することが重要です。「課題・分析・対策・成果」の論理構成を意識した過去問演習を繰り返してください。また、独学で固執せず、先輩技術士の助言を得ることで自身の視座が高まります。技術士資格の取得への道のりは決して平坦ではありませんが、技術者としての地平を広げるまたとない機会です。挑戦する価値は大いにあります。ぜひ目指してください。



取得した技術士登録証（一部マスキング箇所あり）

**【近況】小泉 務** 1978 機械工学科

入社以来、茨城県にある核燃料サイクル技術開発業務や、福島第一原発の廃炉業務を経て退職しました。その後の協力会社での業務も既に5年が過ぎ、これからの仕事への取り組み、趣味のテニス、そして元気なうちに家族との時間を大切にしたいといった様々な気持ちの中で、将来計画を考えている今日この頃です。

**【仕事】島田 明** 1979 電子工学科

セイコーインスツル(株)で18年、職業能力総合大学校で8年(准教授職)、芝浦工業大学で17年(教授職)を過ごしましたが、2026年3月に退職いたしました。趣味のクライミングは、これからも継続する予定です。

**【近況】山崎洋式** 1982 機械工学科編入

今年65歳。会社員というレールを来年3月で卒業します。特許や論文を検索すれば、私の妙な『悪あがき』の記録が山ほど出ますが、それらも全て、1300度の火花と数式が織りなすFrontierの記憶です。さて余生は、学生時代に挫折したマンガ家への道を再起動させようかと画策中。解析入門を解いていた頃の鋭い感性を取り戻し、今度はキャンパスの上で暴走列車を走らせませす。返品不可の欲望と共に。

**【仕事】談 莫東** 2009 量子・物質工学科

4社目となる外資系IT企業に入社して2年が経ち、現在は部門の技術教育などを担当するリーダーを務めています。また、弁理士試験に挑戦しており、今年で3年目になります。技術と知財の両面から力を磨く日々を送っています。

**【仕事】中澤 洋** 2011 総合情報学科

SES(システム開発支援)という形態で8年ほど、様々なお客様先のITプロジェクトのリーダーとして働いています。

## メッセージ

(近況報告)

もっと多くの同窓生の「今」を知りたい。  
そんな思いから設けたコーナーです。



\* 学科の年表記は入学年です。

**【近況】笹野耕治** 1964 電波工学科

81歳になりました。先日夫婦で金婚式の写真を撮りました。

**【近況】坪田秀彦** 1973 情報数理工学科

今はシーズンオフ(2月28日現在)ですが、6月頃からはまた近くの河川へ、特定外来生物であるブラックバス釣りに時々出かけていると思います。元は心無い者が放流して広がったものと思われませんが、繁殖力が強く苦慮しております。毎年漁協でも、電気ショッカーを用いた特別採捕と併せて駆除を行っていますが、一向に数が減りません。

**【仕事】大館正明** 1973 情報数理工学科

昨年夏に損保の保険計理人を引退しましたが、日本アクチュアリー会には引き続き所属しています。電通大からアクチュアリーになる人はほとんどいませんが、やりがいがあり待遇も良く、長く働ける職業なので、数学が得意な方にはお薦めしたい仕事です。

\* 以下のような「お便り」は掲載できませんので、あらかじめご了承ください。

● 会員個人の近況報告に関する文章表現になっていないもの ● 社会規範、公序良俗に反するもの ● 他人の権利を侵害し、または他人の迷惑となるもの ● 広告にあたるもの ● その他、目黒会広報委員会が不適切と判断したものと

## トピックス

# 『紅葉・イルミネーション大賞』報告

同窓生の皆様の交流を図るため、同窓生交流サイト『同窓会ラウンジ』のギャラリー欄を活用して、一年間を通してシーズン毎の地元の行事等を写真でご投稿いただく企画を実施しています。2025年度下期に実施したシーズン毎の大賞をご報告いたします。



ギャラリー

## (1) 紅葉大賞2025

「紅葉」の写真を2025年11月1日～12月21日の期間内に募集したところ、同窓生の皆様から23作品のご投稿をいただき、7作品が紅葉大賞に選出されました。

紅葉大賞カラー表示



作品名 : 床もみじ@宝徳寺

作者 : 時田 清 (1968 応用電子工学科入学)

作品紹介 : 群馬県桐生市にある室町時代に創建された臨済宗の宝徳寺。(京都では瑠璃光院等が有名ですが) 本堂の漆黒の床に照り返る「床もみじ」は今が見頃です。寺はカスタマーフレンドリーで、撮影時間が確保できるように本堂への入場が10-20人@15分位の間隔で制限され、且つ【撮影のコツは腹ばいになり床スレスレまでカメラを下げることで】等のガイドダンスもありました。

写真の素人が発見した【お勤め】は、午前中は逆光\*になるので【床もみじのシャッターチャンスは午後】ということです。屋前に着きましたが、駐車場が一杯で警備員の「昼食をとってから来てくれると『空いて』いいですよ」というアドバイスに従ったので結果として(デジカメですが)良い写真が撮れました。

\*写真のプロは「【紅葉本体は逆光で撮影】すると太陽の光が葉に透けてより鮮やかな色合いになる」と言います。納得です！  
掲句は、国際俳句協会H1誌第166号掲載作品。



作品名 : 成田山公園の流水

作者 : 三浦 洋 (1975 電波通信学科入学)

作品紹介 : 「成田紅葉まつり」に初めて行ってきました。

紅、黄、緑がほどよく交じったカラフルな眺めの中に、岩肌を滑り落ちて池にそそぐ水の流れを見つけました。



作品名 : 神奈川県大仏寺の紅葉

作者 : 中谷 敬郷 (1962 電波工学科入学)

作品紹介 : 久しぶりに、今年の11月23日勤労感謝の日に大仏寺にお参りました。毎年この日が来ると大仏寺の紅葉の見事さを思い出せば懐かしんでいたのですが、今年は決心して電車とバスに乗って、目で確かめに行ってきました。久しぶりの山歩きで体力の衰えを身に沁みて感じた一日でしたが、圧倒的な紅葉に大満足の大仏寺参りでした。



作品名 : もみじ湖散策コースにて  
作者 : 田口 滋昭 (1973 電子工学科入学)  
作品紹介 : 天候にも恵まれ、色鮮やかな紅葉をゆっくり  
楽しみました。



作品名 : 平林寺 (新座市) の紅葉  
作者 : 平山 和成 (1970 機械工学科入学)  
作品紹介 : 新座市の平林寺の紅葉です。  
撮影日 : 2025/11/29



作品名 : 鎌倉 (長谷寺) の紅葉  
作者 : 村島 崇 (1981 電波通信学科入学)  
作品紹介 : 鎌倉、長谷寺の紅葉です。



作品名 : 渡月橋  
作者 : 田辺 亮太 (2021 基盤理工学専攻入学)  
作品紹介 : 11月末にピークを迎えた六義園渡月橋で撮影。気温1桁で既に  
冬の気温でもう秋も終わり。

## (2) イルミネーション大賞2025

「イルミネーション」写真を2025年12月13日～2026年1月31日の期間内に募集したところ、同窓生の皆様から9作品のご投稿をいただき、4作品がイルミネーション大賞に選出されました。

イルミネーション大賞カラー表示



作品名 : マザー牧場の夕景  
作者 : 香川 八束 (1963 短大通信科入学)  
作品紹介 : マザー牧場で偶然イルミネーションに出逢いました。



作品名 : ブリュッセルの冬、グランプラスにて  
作者 : 齋川 昂太 (2007 知能機械工学科入学)  
作品紹介 : 出張先のベルギー・ブリュッセルの世界遺産グランプラスで撮影しました。この時期は音と光のショーが毎夜開催され、クリスマスの雰囲気を楽しませてくれます。



作品名 : 江ノ島シーキャンドル  
作者 : 奥山 浩之 (1979 機械工学第二学科入学)  
作品紹介 : 江ノ島の灯台、シーキャンドルです。湘南の宝石とうたっているだけに、素敵なイルミネーションでした。関東三大イルミネーションだそうです。



作品名 : 夜にあらわれる光の横浜その1  
作者 : 田口 滋昭 (1973 電子工学科入学)  
作品紹介 : 横浜臨海部全体で行われているイルミネーションイベント。みなとみらい地区～赤レンガ倉庫～大栈橋にかけて、2025年11月24日 横浜ランドマークタワー展望フロアより撮影。横浜ランドマークタワーは大規模修繕工事のため年明けから長期休業に入るのでこの夜景が見られるのも大みそかまでです。

# 一般社団法人目黒会 代議員選挙のお知らせ

2026年6月1日  
代議員選挙管理委員会

目黒会は代議員制をとっており、正会員の皆様の代表として代議員を選出し、代議員が本会の運営上の重要項目を総会にて議決する仕組みとなっております。

代議員は、国内各支部から1名が選出される「支部代表代議員」と支部を問わず全正会員による選挙で選出される「普通代議員」からなり、それぞれが等しく議決権を有します。

代議員の任期は2年で、2027年3月末に改選の時期を迎えます。本委員会は2026年4月以降に代議員選挙の準備作業を開始しております。支部代表代議員候補者は、2026年7月1日から8月31日までに各支部の規程に従って選出します。普通代議員選挙については、2026年9月11日にホームページ上にて立候補者の受付開始を公示し、同年10月31日に受付を終了する予定となっておりますので、正会員の皆様に予めお知らせいたします。

以上

## 電通大研究設備の外部共用のご案内（ARIM 事業）

電気通信大学は文部科学省「マテリアル先端リサーチインフラ（ARIM）事業」に参画し、研究設備センターが保有する研究設備・測定装置の外部共用を行っています。様々な材料の構造解析や物性評価などが行える20設備（電子顕微鏡や物理特性測定システム、核磁気共鳴装置など）の機器利用のほか、技術相談にも対応します。企業の技術者から研究機関・大学の研究者まで、皆様のご利用をお待ちしています。

詳細は右のURLをご覧ください。 <https://www.arim.uec.ac.jp/guide.html>



\* ARIM事業は、全国26の大学・研究機関が保有する最先端研究設備とその技術・ノウハウを提供し、得られたデータの集約、利活用に取り組んでいます。

お気軽にご相談、ご連絡ください。

【お問い合わせ窓口】 電気通信大学 研究設備センター ARIM事務局 E-mail: [arim@cia.uec.ac.jp](mailto:arim@cia.uec.ac.jp)

## 会員サービスのご案内

### 図書館利用証発行サービス

電気通信大学附属図書館への入退館ができる利用証発行サービスです。



### クラス会開催連絡サービス

懐かしい仲間と集いたい同窓生向けのサービスです。



### 結婚式お祝いメッセージサービス

ご結婚されるご本人からのご依頼によって目黒会から結婚式お祝いメッセージをお届けするサービスです。



### 長寿お祝いメッセージサービス

古希（70歳）、喜寿（77歳）、傘寿（80歳）、米寿（88歳）、百寿（100歳）を迎えられる同窓生に長寿お祝いメッセージを敬老の日にお届けするサービスです。



【お問い合わせ窓口】 目黒会事務局 E-mail: [service@megurokai.jp](mailto:service@megurokai.jp)

## 第13回 電気通信大学ホームカミングデー開催のご案内

ホームカミングデーは卒業生に大学の今を見ていただくとともに、卒業生と大学のつながりを深めることを目的としています。今年の電通大ホームカミングデーは7月19日（日）に電通大調布キャンパスで開催されます。この日はオープンキャンパスと同時開催ですので、研究室公開などにも参加できます。



卒業生の皆様におかれましては、同窓生・恩師・在学生等との交流や親睦を深めていただきたく、お誘い合わせのうえ、是非ご参加ください。

●日時：2026年7月19日（日） ●場所：電気通信大学調布キャンパス

プログラム（予定）

●歓迎講演会

- ・新学長挨拶・講演
- ・目黒会 会長挨拶
- ・学術講演会（2026年同窓会賞受賞者）

●ウエルカムパーティー（卒業周年記念品贈呈）

●キャンパスツアー（新施設の見学）

●目黒会カフェ（鳥人間サークル機体展示）

●同時開催オープンキャンパス

- ・研究室公開
- ・附属図書館公開
- ・UECコミュニケーションミュージアム公開

\*大学、目黒会ホームページにホームカミングデーの最新情報を随時掲載していきますので、ご注目ください。

電気通信大学 鳥人間サークル

**U.E.C.wings**

**鳥人間コンテスト2027  
出場権獲得を目指して！**

～目黒会も全面的に応援～



2026年大会へのお出場に向けて、機体構造の研究開発および試験機体の製作を行ってきましたが、残念ながらコンテスト出場権を獲得することができませんでした。2027年大会はチーム記録の更新に向けて、引き続き機体構造の研究開発および試験機体の製作を行っていきます。機体製作や試験飛行など、多額の費用が必要となるため、引き続き同窓生の皆様にご支援をお願い申し上げます。

寄付金 1口 1,000円

（何口でも可。できましたら3口以上よりお願いいたします。）

\*詳細は同封のチラシをご覧ください。

寄付金募集

※詳細はこちらをご覧ください。



# スマートテクノロジーフォーラム (STF) 2026

## 講演会開催のお知らせ

目黒会では、最先端技術に係る講演会「スマートテクノロジーフォーラム」を毎年開催しておりますが、今年は「量子コンピュータが切り拓く次世代イノベーションー基礎から社会実装への動向ー」というテーマで開催します。



### 講演会

テーマ：量子コンピュータが切り拓く次世代イノベーションー基礎から社会実装への動向ー

日時：2026年10月2日(金) 14:00～17:40 場所：創立80周年記念会館3階+Zoomオンライン

参加費：無料

講演内容(予定)：

講演1：量子コンピュータ入門：基礎から最先端まで

法政大学 教授 川畑史郎氏

講演2：金融業界における量子コンピュータの活用

みずほ銀行 情報数理工学研究所 主任研究員 大塩耕平氏

講演3：医療から量子への挑戦と創薬までの課題

国立がん研究センター 先端医療開発センター ユニット長 山下理宇氏

講演4：7量子ビットチップ搭載超伝導量子コンピュータの実機構築と実証

電気通信大学 教授 曾我部東馬氏

講演会の詳細や参加申し込みについては、目黒会ホームページにて公開しておりますので、詳細を確認していただき、参加登録をお願いします。

# 第76回調布祭開催のお知らせ

電気通信大学学友会調布祭実行委員会

平素より調布祭実行委員会の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

この度、第76回調布祭を11月20日(金)から11月22日(日)の3日間にわたり開催する運びとなりました。調布祭は本学最大の学園祭として、多くの来場者に親しまれてまいりましたが、本年度はその伝統を大切にしつつ、新たな企画や取り組みにも積極的に挑戦し、これまで以上に魅力ある学園祭の実現を目指しております。

本実行委員会は、100名を超える学生によって構成されており、一人ひとりが主体的に考え、行動しながら、より良い調布祭を創り上げるために日々活動しております。新しい価値を生み出すことを恐れず、挑戦を重ねていく姿勢を大切にしながら準備を進めております。

また、調布祭の開催にあたり、個人の皆様ならびに企業・団体の皆様からのご支援を広く募集しております。皆様からいただいたご寄付は、企画運営の充実や会場設備の整備、安全対策の強化などに活用させていただきます、より質の高い学園祭の実現に役立ててまいります。

本活動の趣旨にご賛同いただけましたら、誠に恐縮ではございますが、何卒ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも調布祭実行委員会への変わらぬご支援のほど、よろしくようお願い申し上げます。



## 会費改定に関する大切なお知らせ

目黒会ではこれまで現行の会費維持に努めてまいりましたが、会費収入と就職支援事業収入による収益構造の弱体化や、昨今の原材料費や配送費の高騰、運営コストの上昇などにより、下記の通り40年ぶりに会費を改定させていただくこととなりました。

会員の皆様にはご負担をおかけすることとなりますが、今後もより一層のサービス向上に努めてまいる所存ですので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

### 1. 改定内容

	年会費	5年会費	10年会費
現会費	3,000円	13,000円	24,000円
新会費	4,000円	18,000円	32,000円

### 2. 改定時期

2027年4月1日納入分より

なお、納入済みの会費について差分を過去に遡って請求することはありません。

## 同窓会誌1号の配布範囲見直しに関する大切なお知らせ

従来目黒会同窓会誌は6月発行の1号は全会員に、12月発行の2号は正会員（会費納入者）に配布してまいりましたが、昨今の郵送費の高騰や紙資源の節約などの観点から、誠に勝手ながら同窓会誌1号につきましては2027年度より配布範囲を見直すこととなりました。

なお、電子ファイル（PDF）版は目黒会ホームページからどなたでもご覧になることができます。会員の皆様にはご不便をおかけしますが、同窓会費の適切な運用のために、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

### 1. 同窓会誌1号の配布範囲の変更内容

- ・【現行】全会員へ郵送
- ・【変更後】過去に会費納入がない会員には原則として同窓会誌を郵送いたしません。

### 2. 変更時期

2027年6月発行分（2027-1号）より

### 3. 電子ファイル（PDF）版同窓会誌の閲覧方法

同窓会ラウンジの調布ネットワーク（URL：<https://megurokai.jp/lounge/category/magazine/>）にて全ページを閲覧いただけます。

## ■一般寄付

氏名	卒業年次	学科・専攻	金額				
匿名希望	昭和45	R	¥152,000	西田 麻美	平成21	DM	¥4,922
小島 宏夫	昭和29	学別	¥20,000	関根 康平	平成10	J	¥3,000
佐々木浩幸	昭和60	MS	¥17,000	中山 満忠	昭和39	E	¥2,000
窪寺 眞章	昭和44	B	¥10,000	細川 弘	昭和45	S	¥2,000
中村 慎二		賛助会員	¥10,000	三好 敏夫	昭和53	JS	¥2,000
大津 恵俊	昭和45	JM	¥7,000	長坂 文夫	昭和57	S	¥2,000
棚網 誠	昭和57	B	¥6,000	野中 達也	昭和57	T	¥2,000
堂山俊一郎	平成18	MC	¥6,000	櫻井 章雄	昭和61	R	¥2,000
斉藤 満 (ご遺族)	昭和31	R	¥5,000	景川 晶宇	昭和40	T	¥1,000
				奥田 忠久	令和4	MI	¥1,000

## 追 悼

目黒会前長野支部長・目黒会元理事

## 今井高介 氏

(1971年電子計算機学科入学)(享年73歳)



目黒会長野支部支部長、ならびに首都圏総支部顧問を務められた今井高介氏が、2025年11月10日(月)14時38分に逝去されました。

今井氏は目黒会理事を経て、2013年に長野分会、2016年5月に長野支部を設立。以来、支部長として組織の基盤強化に多大なるご尽力を賜りました。国内支部委員としても数々の改善提案を行い、会議後の懇親会でも夜遅くまで熱心に議論を交わされた情熱的なお姿は、今も私たちの心に深く刻まれております。

また、全国各地の支部総会へも積極的に足を運び、会員との親睦を深めることに心を砕かれました。そのフットワークの軽さと目黒会への深い愛情、そして一人ひとりに対するこまやかで温かなお心遣いに深く感謝申し上げます。

これまでの多大なるご貢献を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

目黒会国内支部委員会委員長 中村憲一

## 編集後記

4月1日にUECコミュニティセンター東35号館に開館しました。今号の特集は開館を記念して別館のコンセプトと全貌を紹介しています。別館はワンプフロアの各ゾーンでシステムが動態展示され、全て動画の解説も付き、通信の歴史や電通大の研究成果を体験型で概観できる構成となっています。個々の装置や部品の技術を深掘りする本館と良いコンビネーションになっています。機会がありましたらぜひお立ち寄りください。週末の開館も今後検討されるようです。

ユニーク&エキサイティング・キャリア編で紹介したお二人とも現在ラジオの世界で活躍されているが全く異なる経歴をお持ちです。高木誠利さんはラジオ局に技術者として入局され、ディレクター、プロデューサーとしても多面的にご活躍されました。無線分野で多数の著作・記事執筆もされています。杉崎智介さんは電通大博士課程在籍中に興味を持った「プラズマ生命体」への興味が高じて何とご自身の監督・脚本で映画を製作し、昨年公開されました。その自由な発想と行動力は驚きです。

さて、紙面でご案内しました通り、目黒会は近年の物価・人件費の高騰に伴い来年度から年会費の値上げをお願いすることになりました。目黒会は卒業生、学生、大学と一層連携を深めて活動して参ります。引き続きご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

広報委員会 委員長 高橋真之

## 会費納入のご案内



目黒会の諸活動は皆様の会費によって運営しております。

皆様から納入いただいた会費をもとに①社会貢献、②大学支援、③親交・親睦に関する諸活動を展開しています。

会費納入時期となりました同窓生の方の宛名台紙に赤色の払込取扱票をお付けしております。払込取扱票が付いておりましたら会費納入にご協力をお願い申し上げます。

会費納入時期に関するお問い合わせはinfo@megurokai.jpまでお願いいたします。

会費は、年額3,000円、お得な5年分一括払い13,000円、10年分一括払い24,000円があります。PayPalからも送金可能です。(詳細は<https://megurokai.jp/home2/member/>)

銀行振込の場合は、次の銀行口座で可能ですが、振込手数料は送金者負担になります。

三菱UFJ銀行 調布支店 普通 1535011 (シャ)メグロカイ

銀行振込後、目黒会公式サイトのお振込み情報フォームから振込情報をお知らせください。

電気通信大学同窓会

## 一般社団法人 目黒会

〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学内

TEL:042-482-3812 FAX:042-482-3845

E-mail : info@megurokai.jp

発行日 2026年6月15日

発行人 目黒会

編集人 高橋真之

※本誌の記事を無断で転載することを禁じます。

## 広報委員会委員名

委員長 高橋 真之

副委員長 中里 明子

委員

横川 慎二

島崎 俊介

宮本久仁男 (アドバイザー)

宮坂 純 (事務局)

宮本 美則 (事務局)

(2026年5月現在)

目黒会・広報委員会、本誌へのご意見・ご要望をお寄せください。